

設置の趣旨等を記載した書類

目 次

1	設置の趣旨及び必要性.....	2
2	UTokyo College of Design（価値創造学部）の特色.....	10
3	新設する学部等の名称及び学位の名称.....	13
4	教育課程の編成の考え方及び特色.....	15
5	教育方法、履修指導方法及び卒業要件.....	25
6	インターンシップ等の学外実習を実施する場合の具体的計画.....	32
7	入学者選抜の概要.....	34
8	教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色.....	36
9	研究の実施についての考え方、体制、取組.....	37
10	施設、設備等の整備計画.....	39
11	管理運営.....	41
12	自己点検・評価.....	44
13	情報の公表.....	46
14	教育内容等の改善を図るための組織的な研修等.....	48
15	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制.....	50

1 設置の趣旨及び必要性

(1) 設置の趣旨

東京大学は、急速に複雑化・多様化する社会課題の本質を捉え、幅広い学術知とデザインを融合し、持続可能な未来を構想・実現する人材を育成するため、学士・修士5年一貫の新たな教育課程「UTokyo College of Design」を設置する。本設置申請は、当該一貫課程のうち、学士課程にあたる「価値創造学部」の設置に係るものである。

デザインは、多様な要求や制約の下で、解くべき課題を理解し効果的な解決策を創出する学術であり、社会に実装するプロセスである。従来、工業製品の造形や芸術的意匠を中心に発展してきたデザインは、社会の複雑化や価値観の多様化・個人化に伴い、新たな価値や制度の創出、複雑な社会課題の解決に向けた創造的プロセスを含む広義の概念へと、その適用範囲を拡張している。UTokyo College of Designにおけるデザインは、社会課題の解決、社会システムや価値の創成のためのデザインであり、その本質は、課題を理解し、効果的な解決策を創出し、社会に実装して変化をもたらすことである。学生は、デザインと共に、総合研究大学としての東京大学が擁する広範な学術を主体的に学び、それらを組み合わせる様々なプロジェクトベースの学びや取組を繰り返し、課題解決や価値創造の実践力を身につける。UTokyo College of Designでは、“See the World Through Design. Then Change It”をモットーに、多様な学術視点から社会の課題解決や価値創造をリードし、社会や社会変革に貢献する人材の育成を目指す。

UTokyo College of Designの教育は、1) デザインの方法論とスキルの獲得及び実践、2) 幅広い学術知の獲得、3) 社会課題解決に向けた社会と連携した実践経験、の3つの柱からなる。これらを組み合わせることで、自ら社会変革を先導すると同時に、他者と協働しながら変革の触媒となる次世代のリーダー(Change Maker)を育成する。国内外の多様なバックグラウンドを有する学生、教員、研究者、実務家等が集う学びと実践のコミュニティを形成し、多様性を源泉として新たな価値を生み出す。アクティブラーニングやプロジェクト型学修を基本とし、スタジオでの学びや協働を日常的に取り入れることで、学生本位の学びを実現する。また、市民・ユーザー・当事者の目線を念頭に置いた思考と実装を重視し、長期インターンシップ等の学外での学びと実践を通して、現実社会と接続した学修の機会を提供する。

UTokyo College of Designの教育課程は、学士・修士5年一貫で設計している。高度専門人材の早期育成に対する社会的要請を踏まえ、学士課程と修士課程を形式的に区切らない連続性と統合性を備えた柔軟な教育体系を構築し教育効果を最大化すること、幅広い学術知の獲得や長期インターンシップを含む広範な学びを実現することがその理由である。

欧米諸国では、学士・修士の5年以内での取得は標準となっている。国内においては、2025年4月以降、中央教育審議会大学分科会大学院部会及び質向上・質保証システム部会において、学士・修士5年一貫教育の拡充に向けた制度の在り方が議論され、2026年2月に学部における教育及び大学院における教育の連続性に配慮した教育課程（連続課程）が制度化された。中央教育審議会等が示す一連の改革の方向性は、UTokyo College of Designの設置構想の趣旨にも重なるものである。

本設置申請では、現行制度を踏まえ、学部設置の形式を採るが、UTokyo College of Designが効果的な連続課程の編成を行う学部及び研究科として文部科学大臣の認定を得たことを受け（2026年7月24

日)¹、養成する人材像や学位授与方針、教育課程の編成・実施方針及び入学者受入方針については、学士・修士一貫教育を前提として策定している。なお、本文書において、学士・修士5年一貫教育として記載する場合には「UTokyo College of Design」、学士課程部分について記載する場合には、価値創造学部又は本学部として記載している。

（２）設置の背景及び必要性

① 社会の複雑多様化と高等教育への要請

現代社会は、気候変動の深刻化、エネルギー・資源・食料等の制約や環境問題、経済的・社会的格差の拡大、国際秩序の不確実性の増大、ウェルビーイングへの関心の高まり、生成 AI をはじめとするデジタル技術の急速な進展に伴う産業構造・社会構造の変容など、相互に関連する複雑かつ多層的な課題に直面している。これらの課題は、単一の学術領域の知見だけでは解決することができない。課題の本質を見極め、適切な問いを立て、社会に受容され得る解決策や新たな価値を生み出すためには、既存の学問体系・専門分野を超えた統合的アプローチが必要となる。さらに、複数の学術的視点を踏まえることで、社会の変化にしなやかに対応し、課題に対する多様な解決策や新たな可能性を見いだすことができる。2025年2月の中央教育審議会答申「我が国の『知の総和』向上の未来像～高等教育システムの再構築～」²（以下、「知の総和」答申」という。）では、「現代は、専門を生かすための前提となる基礎的・汎用的な能力や分野を超えた専門知を組み合わせ、「総合知」の創出・活用が必要」であり、「文理横断・文理融合教育を通じた課題解決力等の涵養に重点を置いた学位プログラム等に取り組むことが重要」と指摘している。また、「国立大学法人等改革基本方針」（2025年11月）³では、「地球規模の課題は、新たな知、技術、また、これらが社会で実装される上で必要となる新たなルールやファイナンスの形成等がお互いに影響し合い、社会が受容できる形で進化しなければ乗り越えられない」とし、「多様な知と、知を生み出す人がリアルに集結する公共的な場である大学には、DEIを体現し、知をベースとした社会システムの変革のエンジンとなることが期待される」と提言している。このような文理横断や総合知にみられる、既存の学問分野の境界を越えて知を結びつける考え方は、内閣官房「教育未来創造会議」第一次提言⁴（2022年5月）において明確に示されているほか、UNESCO等の国際的議論においても重視されている⁵。UTokyo College of Designは、これらの政策提言と軌を一にして、学術領域を越境して新たな価値を創造する人材の育成を目指し構想されたものである。

② 「デザイン」への期待と人材拡充の必要性

社会の不確実性や複雑性が高まる中、デザインは、課題解決や価値創造のための知と実践の体系として、その重要性を高めている。例えば、経済産業省が2024年6月に公表した「生成 AI 時代の DX 推進に必要な人材・スキルの考え方 2024」⁶では、「生成 AI のような新技術が登場し、変化の激しく複雑で予測困難な時代においてはすべての専門人材においてデザインスキルがより重要になる」と指摘されて

¹ https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/list_00001.html

² https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1420275_00014.htm

³ https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/houjin/1418126_00003.htm

⁴ <https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kyouikumirai/teigen.html>

⁵ 例えば、UNESCO, “New report calls for higher education institutions to embrace the 2030 Agenda,” 15 February 2022, <https://www.unesco.org/en/articles/new-report-calls-higher-education-institutions-embrace-2030-agenda>

⁶ <https://www.meti.go.jp/press/2024/06/20240628006/20240628006.html>

いる。公共セクターにおいても、政策形成や行政サービスにデザインのアプローチを導入する動きが広がっている。英国の Policy Lab、チリの Laboratorio de Gobierno、シンガポールの Innovation Lab、デンマークの Danish Design Center、スウェーデンの Vinnova、台湾の Taiwan Design Research Institute など、各国・地域において、政策形成や公共領域の課題解決にデザインを活用する専門組織や実践基盤が整備されてきている（経済産業省「Research results on policy design in government: English Interview Summaries」）⁷。英国では、政府内の実務者ネットワークである Policy Design Community が形成されており、165 以上の政府機関にまたがる約 1,000 名の政策デザイン実務者ネットワークへと発展している（2025 年時点）⁸。このように、デザインは、自己表現や生産のための手段にとどまらず、社会と向き合い、未来を構想し、分野横断的に協働するための批判的かつ統合的なアプローチとして位置付けられている。近年では、社会的イノベーション、政策、システム変革を支える基盤として、学術領域における研究と社会実践とが相補的に進展している。今日、デザインは地球と人類社会の未来を構想する際に不可欠な戦略として認識されており、その担い手となる人材の育成が急がれている。

他方、我が国においては「経営者がデザインを有効な経営手段と認識しておらず、グローバル競争環境での弱み」となっており、イノベーションを実現する力としてのデザインの重要性が強調されている（経済産業省・特許庁 2018 年 5 月「「デザイン経営」宣言」⁹）。欧米諸国を含むグローバル企業では、近年、CDO（Chief Design Officer）など、デザインを経営レベルで統括する責任者を置く動きが広がっている。我が国においても、スタートアップ企業や大手企業の一部で導入が進みつつあるが、なお緒に就いた段階にある。

③ 高等教育としてのデザイン教育の現状

課題解決と価値創造の方法論として「デザイン」への関心が高まる中、海外大学を中心に、そのアプローチを中核に据えた高等教育プログラムが展開されてきた¹⁰。例えば、2005 年に設立された Stanford University の Hasso Plattner Institute of Design (d.school) における教育実践は、社会課題への実践的アプローチとしてのデザインの意義を示し、デザイン思考を国際的に普及する役割を果たした。このほかにも、海外の大学では、デザインを工学、経営、公共政策、社会イノベーション、サステナビリティ等と接続する学位プログラムや教育研究拠点が形成されている。我が国においても、宇都宮大学地域デザイン科学部（2016 年）、宮城大学事業構想学群価値創造デザイン学類（2017 年）、富山大学都市デザイン学部（2018 年）、武蔵野美術大学造形構想学部（2019 年）、叡啓大学ソーシャルシステムデザイン学部（2021 年）など、デザインを地域、都市、事業、社会システム等の課題と結び付け、課題解決と価値創造を志向する教育プログラムが近年広がりを見せている。

⁷ https://www.meti.go.jp/meti_lib/report/2021FY/000208.pdf

⁸ <https://publicpolicydesign.blog.gov.uk/2025/03/27/join-forces-with-one-thousand-designers-in-2025/>

⁹ <https://www.jpo.go.jp/resources/shingikai/kenkyukai/kyousou-design/document/index/01houkokusho.pdf>

¹⁰ 米国の Harvard University Graduate School of Design、Stanford University の Hasso Plattner Institute of Design (d.school)、Massachusetts Institute of Technology の Media Lab、Carnegie Mellon University School of Design、英国の Imperial College London Dyson School of Design Engineering、Royal College of Art School of Design、University of the Arts London の Central Saint Martins、フィンランドの Aalto University School of Arts, Design and Architecture、オランダの Delft University of Technology Faculty of Industrial Design Engineering、シンガポールの Singapore University of Technology and Design (SUTD)、オーストラリアの University of Sydney School of Architecture, Design and Planning (Design Lab など)、RMIT University School of Design などが挙げられる。

国内外で展開されるこれらの教育プログラムは、デザインを核として学術領域と融合するという点においては、UTokyo College of Design の構想と共通している。しかし、学術領域の融合の範囲は、連携する学部組織、当該大学が有する専門領域に依拠するため、多くの場合、都市計画や工学、社会システムなどの特定の領域との融合に限定されている。

④ 東京大学が「デザイン」を掲げる意味

国内外のデザイン教育プログラムは、いずれも学融合を志向しているが、その範囲や深さは、各大学が有する学術領域により一定の制約を受ける。他方、社会の複雑化、人々の価値観の多様化・個人化、さらにテクノロジーの急速な進化に伴い、デザインの適用範囲は拡張している。それに伴って、課題の発見や解決に必要とされる学術分野の範囲もより一層広がってきている。

東京大学は、10 学部、15 研究科、11 附置研究所等を擁する総合大学として、法学、経済学、文学、教育学、工学、理学、農学、薬学、医学など、広範かつ多様な学術分野を網羅している。各学術分野における卓越した知の集積と、それらを有機的に連携させる基盤を備えていることは、東京大学の最大の強みである。この強みを最大限に活かし、デザインと掛け合わせることで、多角的かつ俯瞰的な視点から複雑な社会課題に挑む、総合的・創造的なアプローチが可能となる。このことは UTokyo College of Design の中核的コンセプトであり、東京大学がデザインを掲げる最大の理由であるとともに、世界的にも類を見ない独自性である。

さらに、東京大学は、学術知と社会課題を結びつけるデザインの方法論と教育手法のノウハウを蓄積してきた。例えば東京大学生産技術研究所 DLX Design Lab（価値創造デザイン推進基盤）では、企業や公共セクター等と協働し、デザインによるイノベーション創出を手掛け、先行的な実践事例を数多く創出するとともに、社会人向けのデザイン教育・イノベーション講座（DLX DESIGN ACADEMY, UTokyo Design School）や次世代向けの体験型プログラム（高校生や小学生、親子対象の未来 Designers、Design Eureka! 等）などを展開している。また、デザインの可能性を追求し議論を深める場を継続的に設けてきた。例えば東京フォーラム 2024 では「Shape the Future, Design for Tomorrow」を掲げ、世界各地から研究者、アーティスト、公共セクターのスペシャリスト、経営者などが一堂に会し、多様な学問分野の研究者が共創する重要性や、デザイン分野の次世代リーダー養成の必要性などについて議論を蓄積してきた。

加えて、東京大学は、分野横断による修博一貫（又は学修博一貫）の学位プログラム（WINGS — World-leading Innovative Graduate Study Program など）の展開や、産業界とのパートナーシップ等を通じて、社会課題の解決や価値創造に取り組んできた幅広い実績がある。これらの知見は、UTokyo College of Design の構想にも活かされている。

デザイン教育を日本・東京で行うことにも固有の意義がある。日本は、豊かな文化的資源と最先端のテクノロジーが互いに交差・融合する場であり、デザインに対する独自の視点を教育・研究に提供できる。さらに、近代化、都市化、環境問題、人口問題などの課題に早期から直面し、他国に先駆けて取り組んできた歴史的背景と蓄積がある。世界有数の国際都市である東京には、多様な人材・産業・文化が集積しており、こうした環境を体感することで、進化し続けるデザインの役割をより深く探求することが可能となる。

多様な学術分野を横断する知の体系と、デザインに関する理論・実践の蓄積を融合させることにより、国際的にも独自性と先進性を有する学位プログラムを構築することが可能となる。このことは、東京大学憲章に掲げる「世界の公共性に奉仕する大学」としての使命、すなわち、多様な学問の融合による新

たな知の創出、人類の福祉や持続可能性への貢献、国際性・公共性・学際性の重視という目標に直結するものである。

（３）養成する人材像及び３つのポリシー

① 養成する人材像

東京大学は、東京大学憲章において「資質を有するすべての者に門戸を開き、広い視野を有するとともに高度の専門的知識と理解力、洞察力、実践力、想像力を兼ね備え、かつ、国際性と開拓者の精神をもった、各分野の指導的人格を養成する」ことを教育目標として掲げている。その実現のために、「幅広いリベラル・アーツ教育を基礎とし、多様な専門教育と有機的に結合する柔軟なシステムを実現し、かつ、その弛まぬ改善に努める」ことを宣言している。さらに、中期目標前文では、東京大学の使命として、「国際的な広い視野と強靱な開拓者精神を持ちつつ、高度な専門的知識と課題解決能力を兼ね備え、不公正や理不尽な格差、様々な社会的弱者の存在に対して鋭敏な感性を有し、自ら「問い」を立て、考えて行動する人材を育成する。そして、人類社会全体の発展に貢献するために公共的な責任を果たすべく、地球的な課題に取り組む多様な学知の醸成と共有・活用を目指す」ことを掲げている。

UTokyo College of Design は、本憲章及び中期目標の精神に則り、多様な学術知をデザインによってつなぎ、複雑化・多様化する社会課題に取り組み、世界にインパクトを与える人材の育成を目指す。学生は、デザインをスキルとしてだけでなく方法論として体系的に学び、様々な分野でイノベーションを起こし、他者と協働しながら課題解決を先導する人材へと成長していく。UTokyo College of Design は、美術・造形領域における職能的デザイナーを育成する教育機関ではない。現代と未来の社会変革を促す次世代のリーダー(Change Maker)を育成することで、デザインを通じて新しい社会の構築を目指す。UTokyo College of Design では、学士・修士一貫教育を通じて、変革につながる様々な課題に挑み、自ら考え行動する人材を育成する。これらのことを踏まえ、UTokyo College of Design が育成する人材像は以下のように集約される。

- 多様な学術の視点から、社会課題に取り組むと共に、新たな社会課題を発見しその解決や新たな価値創造をリードする人材
- 多様性を理解し、多様な人々と協働して、デザインを通して様々な学術知を融合し、変革をもたらす人材

デザインの応用領域は近年大きく拡張しており、観光・宿泊、金融、食品流通、モビリティ等の各種サービス、それらを支える産業や社会システム、更には公共サービスや政策設計に至るまで多岐に及んでいる。今後、社会が急速に多様化・複雑化し、それに伴って新たな社会システムが必要となり、様々な課題が発生する中で、こうした広義のデザインに対応できる人材の重要性は今後一層高まることが想定される。また、社会の変化に対応し様々な変革や価値の創出を駆動する人材も様々なセクターで求められる。修了生は、政治・経済・産業各界、官庁や自治体、国際機関をはじめとする行政や公共のセクター、学術界などの多様な領域において、意義のある変革と新たな価値創造を先導する役割を担う。既存の企業において、あるいは自ら起業して、ビジネスの変革や新たな製品・サービスの創出に関わる者、国内や国際社会において新たな社会システムや政策・ルールの構築、社会課題の解決、様々な枠組みの再設計に携わる者など将来像は多様であるが、その際、自らの能力を発揮するだけでなく、異なる領域・

専門人材をつなぎ、プロジェクトを構想し、推進する役割を果たすことも期待される。例えば、異なる領域を橋渡しする Boundary Spanner や、変革を触発する Catalyst のように、多様な知をつなぎ変化を促す役割がその一例である。さらに、AI 技術をはじめとする技術革新が加速的に進展し、既存の職業が変容・再編される現代においては、「常識や前提にとらわれず、ゼロからイチを生み出す能力」（経済産業省「未来人材ビジョン」2022 年 5 月）¹¹が重要となる。UTokyo College of Design では、起業や企業内におけるイノベーションにとどまらず、今はない新たな社会的役割や職業を創出する、新機軸の人材の育成を目指す。このために、UTokyo College of Design では、単一の専門分野に閉じた人材ではなく、東京大学の多様な学術知を基盤として、複数分野の知見、デザイン手法、社会実装を統合し、社会の中で問いを発見・設定しながら、国内外において既存の枠組みを越えた価値創造を主導できる高度専門人材を育成する。

UTokyo College of Design は、専門性と実践力を兼ね備え、国際社会で活躍できるデザインの高度専門人材を育成するため、学士・修士一貫教育を基本として設計している。一貫教育の運用に当たっては、進級制を導入し、厳格な質保証のもと、優秀で意欲のある学生がより専門的な学修へと進むことができる仕組みを整備する。学士の学位は、4 年以上在籍し卒業要件単位を修得した学生に対し、一貫教育の一つの経過点として授与する。

なお、学士・修士一貫教育を原則としつつも、やむを得ない事情により学士課程段階での学修終了を認める必要が生じた場合には、例外的に、卒業要件単位の修得に加え、4 年次に実施する「Capstone Group Design Project」（卒業研究・卒業制作に相当）の学修成果を評価したうえで、学士号を授与する仕組みを設ける。この場合、学士課程段階では、いわゆる「学士力」（知識・理解、汎用的技能、態度・志向性及び統合的な学習経験と創造的思考力）に加えて、デザインの知識や手法を用い課題解決に取り組む力の獲得を目指す（後掲、学位授与方針①～⑤に対応）。一方で、学士・修士一貫教育の修了時には、デザインに関する高度な専門知識と実践的能力を備え、複雑な課題を理解し、解決策を構想するとともに、多様な専門を有する人々をつなぎ、対話しながら、自律的にプロジェクトを推進する力、課題解決や新たな価値創造を牽引する力を育成することを目指しており（主に学位授与方針⑥に対応）、学士課程と修士課程の各段階で獲得する能力に違いを設けている。

② 学位授与方針、教育課程の編成・実施方針及び入学者受入方針

UTokyo College of Design では、上述の養成する人材像を踏まえ、以下のとおり、3 つのポリシー（学位授与方針、教育課程の編成・実施方針及び入学者受入方針）を定める¹²。養成する人材像及び3 つのポリシーについては、別紙 1 に示すとおりそれぞれ相関しており、整合性を有している。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

UTokyo College of Design では、所定の単位を修得し、以下を満たす学生に学士（学術）及び修士（学術）の学位を授与する。

- ・ 社会課題解決と価値創造に資する幅広い学術の基礎を修得している。（①）
- ・ 自身の関心を起点として専門的な知を自律的・継続的に深めることができる。（②）

¹¹ <https://warp.ndl.go.jp/web/20250801214530/https://www.meti.go.jp/press/2022/05/20220531001/20220531001-1.pdf>

¹² 東京大学の既存の学士課程教育は、前期課程及び後期課程に区分され、進学選択を経て後期課程（専門学部）に進学する。これに対し、UTokyo College of Design は学部前期課程を経ない教育課程を編成するものであるため、既存の学部とは別個に 3 つのポリシーを定める。

- ・デザインの理論や方法論、技法を理解し、学術知と統合して社会課題解決や価値創造を実践することができる。(③)
- ・コミュニケーション能力、ファシリテーション能力、リーダーシップを発揮することができる。(④)
- ・社会課題解決や価値創造に対する倫理や社会的責任を理解している。(⑤)
- ・高度な専門性と学際的視野に基づき課題を見出し、創造的・革新的な解決策や新しい価値を提案し、説得力を持って表現するとともに、他者と協働してそれらの実現を主導的に推進することができる。(⑥) ※

※ 学士・修士一貫の教育課程における到達目標のうち、修士水準にのみ適用。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

UTokyo College of Design では、学位授与方針に掲げた学修成果を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき、学士・修士一貫の体系的な教育課程を編成・実施する。

＜教育課程の編成方針＞

デザインと広範な学術知の融合を重視し、学生の興味・関心に基づき、課題志向で領域横断的な学修を可能とする教育体系を整備することで、論理的・批判的思考能力、実践力、課題発見・解決力を培う。これを実現するために、以下のとおり教育課程を編成する。

- ・デザインの理論・方法論・技法・倫理とともに、幅広い学術分野の基礎や考え方を養う授業科目を初年次必修として設け、2年次以降の学びの基盤とする。
- ・初年次で形成した知識基盤を統合的に活用しつつ、社会課題につながる領域横断的な学術知の獲得に向けた学びと、デザインを実践するプロジェクト型学修を組み合わせた授業科目を編成する。
- ・獲得した知を実社会で実践し、多様性の中で自己を相対化する経験を得るため、長期インターンシップ等の学外での学びを必修科目として設ける。
- ・将来を構想する力を育むとともに、創造的思考力や対話・協働の実践力を養うため、先端的・実験的テーマの議論や実社会・異分野との接点を設ける。
- ・学びの成果の集大成として、自ら計画し実行するキャップストーン・プロジェクトを必修科目として設け、成果を社会に発信する機会を提供する。

＜教育・学修の方針＞

- ・アクティブラーニングやプロジェクト型学修を基本とし、学生自らの学びを広げ知的探求を深める姿勢を培うとともに、理論と実践の往還を重ねることで、知の定着と実践力の涵養を図る。
- ・初年次教育を含む教育課程全体及びスタジオを中心とした準正課活動を通して、ソフトスキルやアカデミックスキル、倫理観、多様性と包摂性を尊重する態度を養う。

＜学修成果の評価の方針＞

- ・学修成果の評価は、授業の目標や特性に応じた評価方法・基準を用いて適切に行う。キャップストーン・プロジェクトでは、相互評価等の多面的な評価手法を取り入れ、学生の総合的能力を評価する。

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

UTokyo College of Design では、国内外を問わず、多様なバックグラウンドを有した、以下の資質等を持った学生を受け入れる。

- ・ 知力と学習能力
- ・ 優れたコミュニケーション能力及び英語力
- ・ 論理的思考力及び創造的思考力
- ・ 責任感、社会正義感、包摂性
- ・ 自主性及び協調性

UTokyo College of Design では包括的かつ公正な入学者選抜を行う。選考では、学業成績並びに、個人の特性、才能、そして特定の環境で培われた経験を考慮することで、学生の将来の可能性を評価する。

（４）組織として研究対象とする学問分野

UTokyo College of Design における研究対象は、広義のデザインであり、社会課題の理解と解決並びに新たな価値創造を担う学術知・実践知としてのデザインを探究し、その理論的深化と応用的展開を図ることである。ここでいうデザインは、造形や表現の技法にとどまらず、社会や制度、人々の営みに変化をもたらす創造的なプロセス全般を指す。その射程は、人文科学、社会科学、自然科学、工学、生命科学、情報学など、東京大学が有する多様な専門領域に及ぶ。UTokyo College of Design では、デザインの探究とともに、課題に応じて幅広い学問領域を横断的に結びつけ、既存の知を再構成することを重視する。

国際的なデザイン研究と実践の蓄積の中で形成されてきた代表的な領域、理論及び方法として、人間と工業製品の関係を扱う Industrial Design、視覚的な表現による情報伝達を体系化した Graphic Design、デジタル環境における人間の体験を設計の対象とする Interaction Design、利用者を中心に問題を発見・解決するプロセスを整理した Design Thinking、既存の前提や価値観を批判的に問い直す Speculative Design、複雑な社会・技術・制度の関係を扱う Systemic Design、設計プロセスに当事者が参加することを重視する Participatory Design などが挙げられる。UTokyo College of Design が探究するデザインは、これらの理論や方法を組み込みつつ、批判的に検証しながら、新たな価値の創造を目指すものである。UTokyo College of Design においてデザインを学問領域として体系化することは、変わることもない固定された理論の構築を意味するものではない。急速に変化する社会課題に応答するために、実践とその評価を通じて方法や基準を更新し続ける、生きた知の体系を構築することを目指す。例えば、AI と人間の協働プロセスの設計など、急速に変化する社会的・技術的条件のもとで、デザインの対象や方法を拡張し、新たなデザインの領域を切り拓くこと自体も、重要な使命のひとつである。

また、価値創造デザイン人材育成研究機構、芸術創造連携研究機構（ACUT）、未来ビジョン研究センターをはじめとする学内研究組織や、東京藝術大学等との包括的な連携を活用することに加えて、Imperial College London、Royal College of Art、University of Cambridge、MIT、National University of Singapore、National Taiwan University、KAIST、Tsinghua University、Hong Kong Polytechnic University など、デザイン教育において先進的な海外大学との国際的ネットワークを構築し、デザインに関わる教育研究の高度化と発展を図る。

2 UTokyo College of Design（価値創造学部）の特色

（１）重視する要素と特色

東京大学では、UTokyo College of Design の構想に当たり、次に挙げる 3 つの要素を重視した。

第 1 に「領域横断的な学び」である。東京大学の課題の 1 つとして、学問の場が既存のディシプリンごとにサイロ化している点が指摘されてきた。現代社会の課題は複雑化・多様化しており、その解決には多様な専門知の結集と、分野を超えた連携が不可欠である。UTokyo College of Design では、東京大学の幅広い学術領域と知的基盤を最大限活用することにより、多角的かつ俯瞰的な視点から課題をとらえ、分野を越境し協働しながら社会課題解決や新たな価値創造に挑む力を培う教育課程を編成する。このような方向性は、「知の総和」答申における「俯瞰的・横断的な視野、複数の異なる視点のアプローチを用いて思考する力」の育成など、近年の高等教育改革の動きとも符合する。

第 2 に「学生本位の学び」である。UTokyo College of Design では、個々の学生が、それぞれの興味・関心に基づく学びを構築できる環境を提供する。加えて、徹底したアクティブラーニングやプロジェクト型学修を通じて、学生の主体性と創造性を最大限に引き出す教育体系を構築する。学生の主体的な学びの重要性は、中央教育審議会答申「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」（2018 年 11 月）等の累次の提言において強調されてきた。また、経済産業省「未来人材ビジョン」（2022 年 5 月）では、「好きなことにのめり込んで豊かな発想や専門性を身に付け、多様な他者と協働しながら、新たな価値やビジョンを創造し、社会課題や生活課題に「新しい解」を生み出せる人材」の必要性が指摘され、「そうした人材は「育てられる」のではなく、ある一定の環境の中で「自ら育つ」ことが重要である」として、UTokyo College of Design は、これらの提言とも方向を同じくし、学生の主体的な学びを中心に据えた教育を展開する。

第 3 に「グローバルな学びの環境」である。東京大学では、英語で学位取得できる教育プログラム PEAK（Programs in English at Komaba）などを通じて教育の国際化を推進してきた。しかし、学士課程における外国人留学生比率は 2 % 程度にとどまるなど、既存の取組には限界があった。上述した現代社会の複雑化・多様化した課題に向き合うためには、多様な国・地域、文化的背景を持つ学生が共に学び、異なる視点や価値観を交わす環境が不可欠である。UTokyo College of Design では、世界中から多様な学生が集い、共に学ぶ場を作ること、こうした学びの環境を実現する。教育未来創造会議第二次提言「未来を創造する若者の留学促進イニシアティブ」（2023 年 4 月）¹³では、「国内大学等の国際化や高度外国人材の活躍に向けた教育環境の整備、日本型教育の海外展開を通じ、多様な文化的背景に基づく価値観を持った者が集い、理解し合う場が創出される教育研究環境」の実現をより一層推進することが提言されている。UTokyo College of Design が目指す学びの環境は、こうした提言に示される趣旨とも軌を一にしている。

UTokyo College of Design は、これらの 3 つの要素を軸に、既存の教育体系を革新する新たなモデルとして設計している。具体的には、以下のような特色を有する。

¹³ <https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kyouikumirai/teigen.html>

① 東京大学が有する幅広い学術知とデザインの融合

UTokyo College of Design の最大の特色は、幅広い学術知とデザインとの融合にある。学生が多様な学術領域に触れ視野を広げることで、デザインの質と可能性は更に高まっていく。UTokyo College of Design では、東京大学の知的資源と人的ネットワークを最大限に活用し、初年次の段階から、人文科学・社会科学・自然科学にわたる幅広く深い学術知と社会課題との関わりに向き合うと同時に、デザインの方法論やスキルを実践的に学ぶ教育課程を、学士・修士5年一貫教育の中で実現する。

② 徹底したグローバル化・多様性の重視

グローバル入試を導入し、提出書類・資料・面接を通じた総合的評価により、国内外から多様なバックグラウンドを有する学生を受け入れる。入学時期は、国際的なアクセスを拡大する観点から9月とし、入学定員100名のうち約半数を国際的背景を持つ学生とする。国内外から才能ある人材が集い、多様な視点、背景、経験、社会課題への意識によって、豊かな学びのコミュニティを形成する。授業は全て英語で実施する。東京大学が有するグローバルネットワークを活かし、世界中から教員を招聘し、国際的な教育研究体制を整備する。

③ 初年次全寮制

初年次は全ての学生が学寮で生活を共にする。共同生活を通じて多様性を体感し、学生同士の強固な信頼関係を構築する。学寮にはレジデント・アシスタント（RA）を配置し、日常生活の支援や心理的サポートを通じて、学生の安心と成長を支える体制を整える。

④ 学生本位の学びの重視

自身の興味・関心や問題意識に基づき、学生自らが学びのパスを主体的に組み立て、学修を構造化し、深化させることを重視する。学生の主体的な学びを側面から支援・促進するために、アカデミック・アドバイザーを導入する。

⑤ スタジオを中心とした学びの場

UTokyo College of Design では、5年間を通じた学びの中核となる場として「スタジオ」を設ける。スタジオは、学生が日常的に集うコモンスペースであり、UTokyo College of Design を象徴する学びの場である。同級生や先輩後輩、実務家や国内外の有識者など多様な人々が集い、自由かつ創造的な議論や実践を行う場として機能する。スタジオでは教員がメンターとして日常的に関わりながら支援・助言を行う。

⑥ 実社会での学びと実装

企業や国際機関等と連携した長期インターンシップ等の学外での学びを必修化する。コミュニティ・エンゲージメントの観点から、学生が自らの考えを多様な視点で検証し、理論と実践を往還することで学びを深化させる。学外の専門家や実務家との接点を積極的に組み入れ、未来を創る人材を産業界や社会と協働して育成する。これにより、デザインと学術知・実践知との接続を強化し、新たな知の創出と社会への実装を推進する。

（２）東京大学における位置付け

2021 年 9 月に発表した東京大学の新たな憲章「UTokyo Compass」¹⁴では、「現代的で地球的な諸課題の前に大学の可能性を問いなおし、これまでの在り方を設計しなおすことをも厭わない」姿勢を示した。2024 年 5 月に公表した「UTokyo Compass 2.0」では、その公約を発展させ、様々な問題を解決するための学知・方法知の中心に、「デザイン」ということばを据えた。東京大学は「デザイン」を、地球と人類社会の未来を構想する際に不可欠な戦略として、また、今の時代に大学が果たすべき役割として、重要な要素であると位置づけている。こうした理念のもとに、UTokyo College of Design の設置を構想した。

価値創造学部は、1958 年の薬学部設置以来、約 70 年ぶりとなる新たな学部組織であり、全ての学部・研究科等の参画のもと、新たな時代に求められる学びのかたちを構想してきた。検討に当たっては、英語で学位取得ができる教育プログラムの先駆けとして実績を積んできた PEAK（Programs in English at Komaba）の知見も反映している。これらを踏まえ、UTokyo College of Design では、上述の特色に示す新たな教育手法を積極的に導入する。

東京大学は、UTokyo College of Design を、「オープンな構造による価値創造力（Commitment to openness）」、「多様な人材を惹きつける国際競争力（Commitment to competitiveness）」の実現のための重要施策の 1 つとして位置付けており、これらの施策を通じて、多様な専門領域との接続や人的交流を図るとともに、新たな教育手法や学びのモデルが、東京大学全体の学びの変革、国際化の一層の推進へと波及することを目指す。「多様性」は、UTokyo College of Design が目指す教育において重要かつ不可欠な要素である。多様な背景を有する学生と教員が、それぞれ異なる視点や知見を持ち寄ることにより、複雑な課題を多面的に捉え、新たな価値を構想することにつながる。このため、国内外から多様な学生を受け入れるとともに、東京大学の幅広い分野の教員の参画を得て、さらに出身国・地域等についても多様な教員構成とすることで、異なる視点や知見が交わる教育環境を形成する。また、学内の多様な分野の学生がデザインの考え方や方法論に触れる機会を広げる観点から、他学部の学生が UTokyo College of Design の教育活動の一部に参加する機会（アフィリエイト制度）を設ける。UTokyo College of Design が、各学部・研究科等の専門教育や人材と連携・融合することにより、全学的な相乗効果を生み出す。このことを通じて、「世界の誰もが来たくなる大学」という UTokyo Compass の基本理念を実現していく。

¹⁴ <https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/president/utokyo-compass.html>

3 新設する学部等の名称及び学位の名称

(1) 学部・学科名称

新設する学部・学科の名称は、次のとおりとする。

日本語名称：価値創造学部／価値創造学科

英語名称：College of Design／Department of Design

UTokyo College of Designにおけるデザインは、社会課題の解決、社会システムや価値の創成のためのデザインであり、その本質は、課題を理解し、アイデアを生み出し、効果的な解決策を創出し、変化をもたらすことである。カリキュラムにおいても、プロジェクト型学修や社会実践を通じて、学生が主体的に価値創造に取り組む姿勢を形成するよう設計している。これらを踏まえ、学部の日本語名称は、「価値創造学部」とした。また、デザインを基軸とする領域横断的な学びと協働を促進する観点から、学科を細分化しない1学科制とし、学科名称も前述の趣旨に照らして「価値創造学科」とした。

英語名称については、Stanford Universityのd.school、Harvard Graduate School of Design (GSD)などの事例に見られるように、「Design」という語が、課題解決や制度設計、社会変革を志向する学際的アプローチを示す概念として国際的に広く通用していること、また、海外大学等との学術ネットワーク形成の観点から適切であることに鑑み、「College of Design」を採用した。なお、「College」という語は、本学教養学部（前期課程及び後期課程）の英語名称「College of Arts and Sciences」との整合性を踏まえたものである。

(2) 学位の名称

価値創造学部が授与する学位の名称は、次のとおりとする。

日本語名称：学士（学術）

英語名称：Bachelor of Arts and Sciences

本学部は、多様な学術知をデザインによってつなぎ、融合することにより、複雑化する社会課題に取り組み、世界に新たな価値を創造する人材の育成を目指す。学位授与方針においては、課題解決と価値創造の基盤となる幅広い学術知の修得、並びにそれらとデザインを統合して実践する力の涵養を掲げている。学生は、デザインの知識や技法に加え、人文科学・社会科学・自然科学にわたる幅広い学術知を学び、学際的な視野と実践力を培うことが求められる。「学術」は、特定分野に限定されない本学部の教育内容を的確に表すものであり、造形や工学など一部の領域に限定した学位名称では、本学部の横断的・融合的な教育の実態を十分に反映できないことから、より広い射程を持つ「学士（学術）／Bachelor of Arts and Sciences」を用いることとした。

学位の通用性については、国内では、叡啓大学ソーシャルシステムデザイン学部や九州大学共創学部などが学位の名称として学士（学術）／Bachelor of Arts and Science(s)を用いている。海外においてもUniversity College London (UCL)をはじめ、多くの大学でArts and Sciencesを冠する学位が授与されており、国際的にも通用性を有する。なお、ベンチマーク大学の1つであるStanford Universityのd.schoolが提供するカリキュラムを基盤とした学位プログラムでは、Bachelor of Science in Design

であるが、本学部の教育は広範な学術領域を横断するものであり、Bachelor of Arts and Sciences が実態をより適切に反映していると判断した。

4 教育課程の編成の考え方及び特色

（１）教育課程の編成の考え方

冒頭に述べたように、UTokyo College of Design におけるデザインは、社会課題の解決、社会システムや価値の創成のためのデザインであり、その本質は、課題を理解し、効果的な解決策を創出し、社会に実装して変化をもたらすことである。総合大学としての東京大学が有する幅広い学術領域と知的基盤を最大限に活用し、多角的かつ俯瞰的な視点から社会課題に取り組むことにより、デザインの概念と可能性を更に拡張していく。デザインは単なるモノづくりの手段にとどまらず、社会と対話し、未来を構想し、分野を越えて協働するための批判的かつ統合的なアプローチである。このような理念に基づき、UTokyo College of Design における教育は、次の３つを柱として構築する。

第１に、デザインの方法論とスキルの獲得・実践である。学生は、批判的思考や創造性、技術スキル、反復のプロセス、協働、コミュニケーションなどの方法論と実践的スキルを体系的に修得する。これにより、批判的思考や創造的発想を基に試行錯誤を通じて解を磨き上げるとともに、異分野の知を統合して協働する力を涵養する。さらに、市民・ユーザー・当事者の視点を重視した思考と実装を行い、関係者に対して説得力ある表現を行う力を養うことで、課題解決の実効性を高める。

第２に、幅広い学術知の獲得である。学生は、法学、経済学、文学、教育学、工学、理学、農学、薬学、医学など、東京大学が有する幅広く深い学術知を横断的に学ぶことで、多面的かつ俯瞰的な視座を獲得する。これにより社会課題の相互関連性を理解し、柔軟で実践的なデザインの思考を身につけることができる。

第３に、社会課題解決に向けた社会と連携した実践経験である。デザインは、気候変動への対応、社会的公平性や法と正義の実現、食や生態系の持続可能性、地域文化や伝統の継承と活用、災害に備えたレジリエンスの強化、更には教育や政治参加のあり方に至るまで、未来社会を規定する本質的な課題に向き合うための実践的手法である。これらの課題は単一の専門分野で解決することはできず、多様な学術知を横断的に結集し、想像力と実行力をもって取り組むことが不可欠である。その意味で、学際的な視点を前提とするデザインは最も力を発揮し得る。

UTokyo College of Design の教育課程は、これら３つの柱を有機的に統合し、相乗効果を生み出す点に独自性がある。

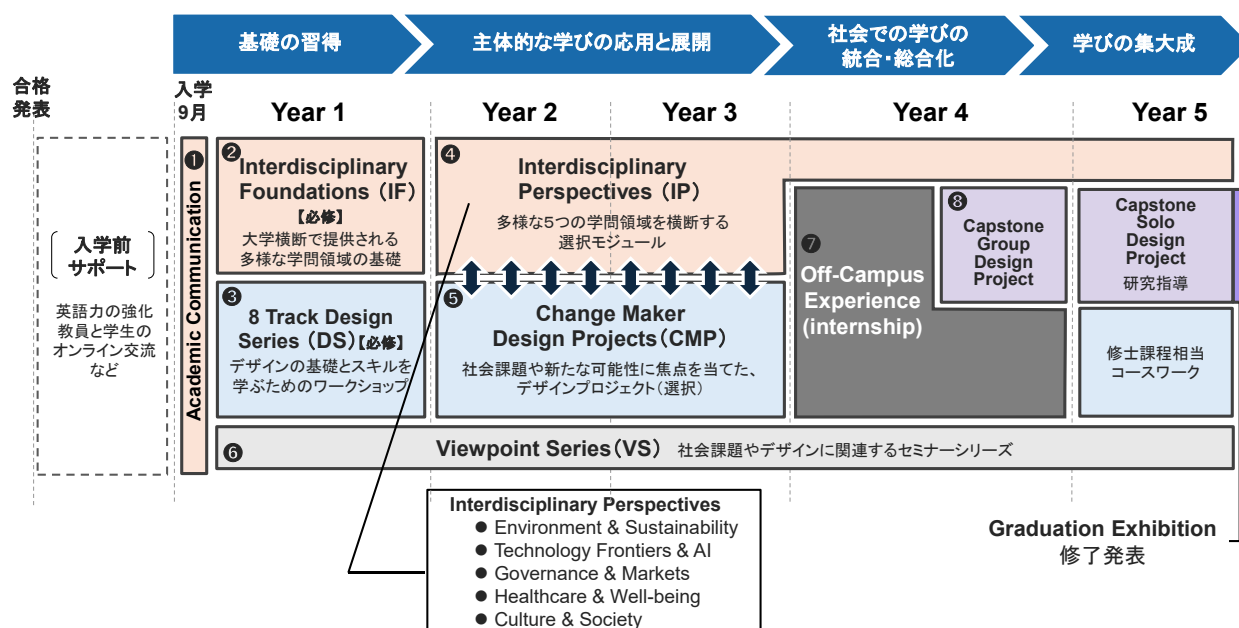
冒頭に述べたように、現代社会は複雑で相互に絡み合う課題に直面している。こうした課題を正面から捉え、その解決に資する新たな価値を自らデザインする（Think＝思考し、Create＝創造し、Deliver＝社会に生かす）ことができる人材の育成は喫緊の課題である。社会が直面する課題は常に変化し続けており、知そのものも更新を迫られる。したがって、あらかじめ用意された問いや学びの順序をただなぞるのではなく、学生自身が問いを立て、他者との対話を通じて多様な知を結び直し、常に学びを再構築する姿勢が求められる。さらに、正解のない課題に挑むためには、多様な視点を受け入れ、他者の立場を理解し、自らの前提を問い直す態度が不可欠である。UTokyo College of Design では、多様性を重視し、異なる専門分野、文化的背景、価値観を持つ者同士の協働を教育の随所に組み込む。また、産業界、地域社会、国際機関等との連携による実践型プロジェクトを通じて、学生は社会の現場における制約や摩擦も経験しながら、実社会の中で価値創造を実現する力を磨いていく。

学生一人ひとりが異なる経験をし、異なる形の成長を遂げることが大きな強みとなる。こうした多様性は価値創造の源泉であり、未来志向の教育を支えるために不可欠な要素である。

（２）教育課程の体系性

UTokyo College of Design の教育課程は、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針に基づき、以下に示す８つの授業科目群で構成している。１年次では、初年次教育プログラム【①】と並行しつつ、幅広い学術分野の基礎や思考様式を学ぶとともに【②】、「デザインとは何か」という根本的な問いを起点に、デザインの原理・方法論・倫理を体系的に学ぶ【③】。これらはすべて必修科目である。２年次及び３年次では、５つの領域からなる領域横断的な学術知を修得しながら【④】、多様な学術とデザインとをつなぎ、社会課題を志向したプロジェクト型学修に取り組む【⑤】。さらに、現代の最先端の動きや社会的・環境的課題のフロンティアを知る機会を随所に設ける【⑥】。それぞれの学生が自らの興味関心や問題意識に応じて個別最適化された学びのパスを組み立て、理論と実践の往復を何度も繰り返しながら、知の定着と実践力の深化を図る。４年次前期では、長期インターンシップ等の学外での学びを組み入れ、これまでに得た知識や経験を実社会の中で捉え直すとともに、自己相対化と試行錯誤を重ね、実課題へのアプローチを深化させる【⑦】。これらの経験を Capstone Design Project へとつなげていく【⑧】。

- ① Academic Communication : アカデミック・スキル、アカデミック・インテグリティ
- ② Interdisciplinary Foundations (IF) : 幅広い学術分野の基礎や考え方の修得
- ③ 8 Track Design Series : デザインの理論・方法論・技法・倫理の修得
- ④ Interdisciplinary Perspectives (IP) : 学びの起点となる領域横断的な学術知の修得
- ⑤ Change Maker Design Projects : デザインと学術知の融合による課題解決と価値創造の実践
- ⑥ Viewpoint Series : 現代の最先端の理解とデザインの在り方の多面的探究
- ⑦ Off-Campus Experience : 実社会における理論と実践の架橋と自己相対化の経験
- ⑧ Capstone Design Project : 学びの成果の集大成と社会への発信



各授業科目群の年次配当は、上述のとおりであり、順次性と一貫した構造を備えた体系的な教育課程を編成している。理論的基盤の修得から実践へと至る一連の学修の流れを前提として5年一貫の教育課程を編成することで、教育効果の最大化と高度専門人材の育成を実現する。さらに、学士力の涵養と並行し、プロジェクト型学修等を通じて研究能力を培うなど、修士課程に求められる課題発見能力や論理的思考力等を獲得する学びをシームレスに統合して、学びの一貫性を高める。これにより、従来の学士・修士6年間で実施してきた教育内容と同等以上の質を確保しつつ、5年間で学士及び修士の学位を取得可能な教育課程を実現する。

学生の受入れ時期は9月であり、初年次教育を含む初年度を除き、各学年の授業開始時期は10月となる。4ターム制（4学期制）¹⁵を採用し、週複数回授業により学修効果を高める。なお、学生の受入れ時期は9月のみである。

学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針と各授業科目群との関係については、別紙1に示すとおりであり、各項目が対応し、整合性があるものとなっている。

（3）授業科目群の設定趣旨と教育内容

以下では、8つの授業科目群について、設定趣旨、科目構成や教育内容、必修選択等の別、配当年次等の考え方を示す。

① Academic Communication

「Academic Communication」は、入学当初及び1年次の途中に行う初年次教育プログラムであり、主体的に学ぶ姿勢の涵養、基礎的なアカデミック・スキルの修得、アカデミック・インテグリティの理解を目的とする。2科目・計4単位の必修科目であり、入学直後（9月）の前半科目「Academic Communication I」、第1 Semester終了時（3月）の後半科目「Academic Communication II」を集中講義形式で行う。

「Academic Communication I」では、学術論文の読み方、学術的な議論の進め方、論文・レポートの執筆、プレゼンテーションの基礎などのアカデミック・コミュニケーションの基礎や、学問的誠実性や研究倫理、AIツールの適切な活用、人権尊重や多文化共生・DEI等を含むアカデミック・インテグリティの涵養を図り、10月以降の授業に備える。

「Academic Communication II」では、入学直後に学んだ基礎を踏まえつつ、アカデミック・ライティング及びプレゼンテーションを発展的に学修する。入学後約半年を経たこの時期に当該授業科目を設けることで、学修上の課題や不安の解消を支援する意味もある。継続的なアカデミック・アドバイジングやメンタリング（27頁参照）とも連動させながら、以降の学びへの円滑な接続を図る。

② Interdisciplinary Foundations (IF)

「Interdisciplinary Foundations (IF)」(以下、「IF」という。)は、主要な学術領域をカバーする学際的基礎科目群である。「法学・政治学基礎」、「経済学・経営学基礎」、「歴史・哲学基礎」、「文化・社会

¹⁵ 東京大学では、2015年度に4ターム制を導入し、週複数回授業など多様な教育方法を組み合わせることにより、学生が科目履修や学習体験を主体的かつ柔軟に行えるようにしている。学部や暦により若干の差異はあるが、概ね10月～11月をA1ターム、12月～翌年3月をA2ターム（両者を合わせてA Semester）、4月～5月をS1ターム、6月～9月をS2ターム（両者を合わせてS Semester）と称している。8月～9月は夏季休業期間、2月～3月は春季休業期間とするが、これらの期間においても集中講義や実習等を実施する場合がある。なお、授業時間は105分を基本としている。

基礎」、「理学基礎」、「情報学基礎」、「農学・環境学基礎」、「医学・薬学基礎」及び「工学基礎」の9科目で構成し、各領域の基本的な考え方や全体像を理解するとともに、当該領域への興味・関心を喚起し、当該領域と社会とのつながりを理解することを目的とする。1年次の必修科目であり、それぞれターム制週2回開講を基本とし、1科目2単位、計18単位を修得する。

IFは、社会課題の解決に立ち向かうための第一歩として、UTokyo College of Designでの学びの世界に誘う入口となる。東京大学の主要な学術領域によって構成し、各学術領域から見える世界を俯瞰的視座に立って描くことに主眼を置く。最先端の学問の世界を知ることを通して、各学問の哲学的基礎を獲得するとともに、各学問が現代の様々な社会課題と深く関わっていることを認識していく。単に薄く広く知識を網羅するのではなく、学問の哲学的基盤に触れることで、学生の主体的探究を促す。人間社会、自然と地球の奥深さを学問がどう捉え、学問と技術革新が世界をどう変革してきたか、現代社会が抱える課題を学問的に捉えるとどのように見えるのかをIFを通して学生に提示する。

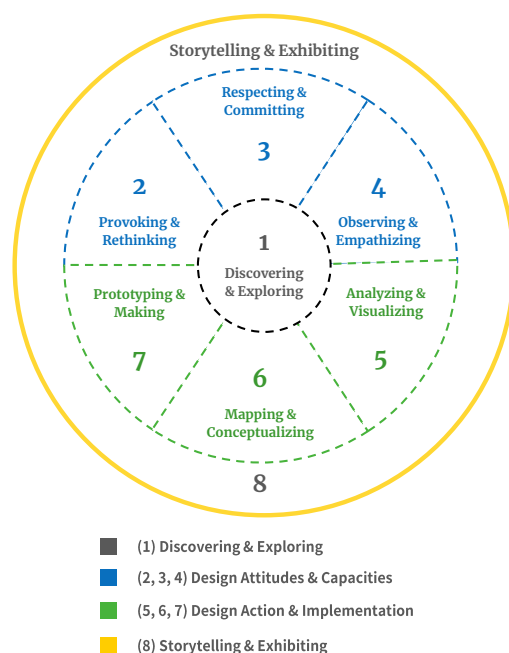
UTokyo College of Designは、特定分野に閉じた学びを奨励しない。あらゆる社会課題は多様な学術領域が協働することではじめてその実態にアプローチすることができ、解決への道筋が描かれる。このような理念を具体化するため、IFの9科目全てを必修とし、1年次に配置することで、学生の知的好奇心を喚起する。

デザインは多様な学術知との融合によって、その可能性を広げ、質を高めることができる。したがってIFは、1年次に並行して学ぶ8 Track Design Seriesと両輪を成す。また、2年次以降のChange Maker Design Projects(21頁参照)を行う際の土台にもなる。さらに、2年次以降にInterdisciplinary Perspectives(IP)(19頁参照)を配置し、IFでの学びを基盤としながら、社会課題との対峙をより強く意識した学びによって、各自の世界を更に広げ、深めていく。

③ 8 Track Design Series

「8 Track Design Series (DS)」は、デザインの基礎的かつ多様な手法とスキルを網羅的に学び、デザインの対象の広がりや可能性を理解し、2年次以降のデザイン実践演習に取り組む上での基盤を身につけるための授業科目群である。IFとともに1年次の必修科目であり、8つの授業科目(DS1~DS8)を1つの学修パッケージとして構成している。タームを2分割した約3.5週を1科目の学修期間とし、原則週4日、ワークショップ形式で集中的に学ぶ。1科目2単位、計16単位を修得する。

8 Track Design Seriesは、「DS1: Discovering & Exploring」、「DS2: Provoking & Rethinking」、「DS3: Respecting & Committing」、「DS4: Observing & Empathizing」、「DS5: Analyzing & Visualizing」、「DS6: Mapping & Conceptualizing」、「DS7: Prototyping & Making」及び「DS8: Storytelling & Exhibiting」の8科目で構成する。DS2~DS7は、「Design Attitudes & Capacities (DS2~DS4)」と「Design Action & Implementation (DS5~DS7)」の2つのカテゴリーに区分している。前者では、デザインに向き合う態度、価値観、倫理的責任及び批評的視座等、デザイン



実践の前提となる思考様式を獲得する。後者では、それらの態度・視座を具体的な社会的文脈において実装するための方法論及び技能を修得させ、分析、概念化、可視化、試作等の実践的能力を養成する。これらの学修を統合し、学年の最後に、DS8「Storytelling & Exhibiting」において1年間の成果をまとめ、発表する。

学びの導入として全体像を把握するDS1及び学びを総まとめし成果発表するDS8は、1年生全員が一堂に会して履修する。DS2～DS7は3グループに分かれて履修する。なお、DS2～DS4、DS5～DS7の内部には特段の順次性は設けていない。

④ Interdisciplinary Perspectives (IP)

「Interdisciplinary Perspectives (IP)」(以下、「IP」という。)は、学生自らの学びを構築するための起点となる領域横断的な学術知の修得を目的とする授業科目群である。IPは、「Environment & Sustainability」、「Technology Frontiers & AI」、「Governance & Markets」、「Healthcare & Well-being」及び「Culture & Society」の5つの領域からなり、それぞれ15科目程度を配置する。1科目2単位、ターム制・週2回開講を基本とし、学生は興味関心や問題意識に応じて20科目(40単位)以上¹⁶を選択必修として修得する。IP領域のいずれかを専攻するものではなく、幅広く領域横断的な学びを通じて、学生が新たな視座を獲得することを企図している。2年次、3年次を中心に履修するが、高年次履修を推奨する科目もあり、4年次以降も学生の主体的な学びが継続されることを想定している。

各IP領域の趣旨は下記のとおりである。複雑化・流動化する現代社会に対峙するためには、既存のドメインに閉じたデザインでは不十分であり、多様な学術知を参照し、新たな理解や発想を得ることが不可欠である。IPは、この理念に基づき、東京大学の多様な専門領域から集約した知、あるいは視座であり、一つひとつの科目が学生の関心を喚起し、未来への想像力を刺激することを企図している。5つの領域には相互に重なり・関係があり、科目群は其中で密接に絡み合っている。UTokyo College of Designでは、そのつながりの一部を示唆しつつも、後掲「Change Maker Design Projects」等における実践体験との往還を通じて学生自らが新しい連関を見出し、それにより世界観を創り出すことを重視する。

IPはIFでの基盤的学修を土台としつつ、現実の課題と理論・知識とをつなぐ課題志向型の学びの場である。設定されたIPの5領域はそのための道標であり、学生自らが各IPを超えて科目間の有機的なつながりを見出しながら多様な知を広げると同時にその連結や統合を進め、自らの世界観を形成していく。その世界観もデザインプロジェクトに挑む中で再構築を迫られ、IPはその過程で繰り返し立ち返る、新たな着想を得る源泉であり、知的訓練の場として機能する。

Environment & Sustainability

地球規模の環境問題や途上国での貧困等、持続可能性(サステナビリティ)に関する諸問題は、依然として深刻な状態である。本IP領域では、サステナビリティに関する諸問題の構造や本質を捉え、解決に向けて導入済の技術や政策を把握し、残された課題を見出し、克服するための手段を提示する。この一連のプロセスを習得するには、複数の学問領域にまたがる学際

¹⁶ 「Change Maker Design Projects」の修得単位数に応じて卒業要件単位数が異なる。詳細は「5 教育方法、履修指導方法及び卒業要件」を参照。

性が求められる。資源や環境の状態を定量的に計測する観測やデータ収集とそれを踏まえた理学的研究、解決に資する工学的・技術的アプローチ、自然生態系の生物学的理解、社会の意思決定に関する政治学、政策としての法学や経済学、人々の意識や行動変容に関する行動科学等が含まれる。

Technology Frontiers & AI

科学技術は18世紀産業革命以降の近現代社会を支える基盤のひとつであり、今後の社会にも欠かせない。本IP領域では、次世代社会デザインに資すると期待される様々な先端科学技術、特に近年進化の著しいAIについて学ぶ。科目群は主に理学、工学、情報学分野から選出され、エネルギー工学や計算機科学など基礎的・普遍的なテーマから、ロボティクスや宇宙開発、最先端AIなど特定の応用分野の話題まで幅広く用意する。また本IP領域が目指すのは、専門細分化が進んだ従来型の理工学教育とは異なり、学生独自に高い視点から科学技術を俯瞰するための教育であり、そのために工学デザインの本質を問う科目や現在の科学技術の抱える問題や限界を考える科目など、科学技術のあり方そのものへの思考を促す科目も用意する。

Governance & Markets

本IP領域では、世界の資源が限られている中で、全ての人々が自由意志で最良の人生を選ぶことができる、そういう理想の社会をどうデザインすべきかを、学ぶ。世界の多くの人々の生活は、衣食住を、市場を通じて売買することで成立している。全体主義的な政府統制はうまくいかないが、市場が成り立つ基盤となるルールの制定と実施は必要でありそれがガバナンスである。これには環境問題など、単純な市場ではうまくいかないことへの対応も含まれる。経済学はルールのあるべき姿を明らかにし、法学はそれをどのように明文化すべきかを示す。政治学はその選択をどのように民主的になすかを示す。国際的なルールに関しては、世界政府が存在しない中、紛争の可能性もあり、ガバナンスをどのように確保するかが課題である。本IP領域ではそれぞれの役割と課題、相互関係に関わる科目群を用意する。

Healthcare & Well-being

現代社会は、パンデミック、気候変動、貧困といった地球規模の危機に加え、超高齢化、メンタルヘルスなどの複雑な課題に直面している。国境を越えた人の移動や情報の伝播が加速する現代において、特定の地域に限定されないグローバルな健康課題に対する新たな解決策が求められている。本IP領域では、生命科学、医学、公衆衛生学の知見を基盤に、行動科学、社会学、環境学、都市デザインなどを統合し、デザイン思考を活用して多層的に健康とウェルビーイングを探究する。細胞、臓器、身体などのミクロなレベルから、医療システム、社会構造、都市・地域といったマクロなレベルに至るまで、科学的理解と社会的実践を往還しながら、健康で持続可能な社会の創出に資する知の体系化を目指す。

Culture & Society

人文社会系の個別テーマを探究することを通じて、思索の力を養うとともに、社会と文化の多様性とその背後にある力学を的確に理解する。とくに日本・アジアの社会と文化の知見を深める。社会における権力の作用を批判的に捉え、公正で持続可能な世界を構想し実現するための想像力と実践力を涵養する。理論的な学びと実践的なプロジェクトを往還させることで、批判的思考を現実社会に活かす力を培い、多角的な視点を身につける。さらに、多文化的な交流や協働を通じて、異なる価値や背景を持つ人々との対話を深め、共に課題解決へと取り組む姿勢

を育む。本 IP 領域では、そのような学びを通じて、学生が人文社会系分野の抽象的知識の習得にとどまらず、社会的責任と倫理観を備えた実践的な人材へと成長することを目指す。

⑤ Change Maker Design Projects

「Change Maker Design Projects (CMP)」は、社会課題や新たなデザイン機会に焦点を当て、デザインと学術知の融合を通じて先端的な議論を喚起し、意義あるアウトプットの創出過程を経験する実践型授業科目群である。2 年次・3 年次の選択必修科目であり、学生は、10 件を超える授業科目（プロジェクト）の中から 7～8 科目を選択して履修し、計 28 単位以上を修得する¹⁷。原則としてターム制とし、1 ターム週 4 コマ開講で 4 単位を修得する。

Change Maker Design Projects では、現代社会あるいは未来社会での課題を想定し、学生が正解のない課題に挑み、試行錯誤を重ねながら新たな可能性を見出す学びを展開する。ウェルビーイング、食、地域と文化、社会企業、法と正義、政治、気候変動、災害レジリエンス、生態系、創造性とテクノロジー、包摂性とエンターテインメント、教育といった地球規模の課題や将来予測に基づく先端的テーマを取り上げ、課題の発掘から、議論、解析、検証、プロトタイピング、解決策の提案に至る一連のプロセスを実践する。学生は興味関心に応じて、特定の領域に重点的に取り組むことも、複数分野を横断的に探究することも可能である。少人数によるプロジェクト型学修を基本とし、1 年次に修得した学術知の基礎や 8 Track Design Series で得たスキルや方法を具体的な社会課題に応用するとともに、新たなデザインアプローチを修得・実践することにより、学修をより一層深化させる。また、学生は IP で得た知識を Change Maker Design Projects での実践と統合し、プロジェクトを通じて得られた洞察を IP の履修へと接続していく。この相互作用を通じて、学生の主体的な探究を動機づけながら、学術知とデザインの融合を図る。このような観点から、Change Maker Design Projects と IP を形式的に関連付けることはせず、デザインを専門とする教員と IP を担当する教員が協働を図ることで、境界領域の教育を実現する。さらに、学内外の専門家・実務家と協働し、デザインと多様な学術知・実践知との接続を図ることにより、最先端のテーマを機動的に立ち上げることも可能とする。また、スタジオを授業内外で活用することにより学びの場を拡張し、多様な知との出会いや融合を促す。こうした環境の下で、学生同士や多様な関係者との協働を進めるとともに、IP 等の学術的な学びとプロジェクト型学修との往還を繰り返し、実践と振り返りを積み重ねることで深い学びを実現する。

⑥ Viewpoint Series

「Viewpoint Series (VS)」は、研究や実践の最先端の動きや最新の社会的・環境的課題のフロンティアに触れながら、デザインのあり方を多角的に探究することを目的とする。他の授業科目群での学びを発展的に補完し、学生の視野を更に広げ、創造性を喚起するとともに、社会システムや課題解決におけるデザインの役割について理解を深めていく。授業は通年開講とし、1 学年 2 単位の選択科目として設定する。

本 Series は、東京大学が有する教育研究ネットワークに加え、産業界をはじめとする多様な外部機関との連携基盤を最大限活用し、学内外の第一線の実務家、研究者、デザイナー等による多様な講義やワークショップを通じて、幅広い視点と知見に触れる機会を提供する。また、他科目群で扱いきれなか

¹⁷ 「IP」の修得単位数に応じて卒業要件単位数が異なる。詳細は「5 教育方法、履修指導方法及び卒業要件」を参照。

った最先端のデザインアプローチや新しいデザインの兆し及び表現手段などについても取り上げ、学生が多様で多角的なインスピレーションを獲得し、また審美眼を磨く機会とする。対話や内省の時間も意図的に組み込むことで、先端的デザインや社会課題への理解、批判的考察、統合的思考の醸成を加速させる。レクチャー型（大人数講義）、セミナー型（小規模グループによる議論や実践）又はワークショップ型（素材、身体、芸術的表現を用いた実践型セッション）の講義を原則毎週開講し、13回以上の参加、各回の事前学修及びレポート、並びに総括レポートに基づき単位を付与する。

⑦ Off-Campus Experience

「Off-Campus Experience」は、3年次までに修得したデザインの方法論や幅広い学術知、更に Change Maker Design Projects で培った経験を通じて、実際に社会を見ることにより、学びを実社会につなげ、社会に貢献する態度を身に付けることを目的とする。4年次前半の必修科目であり、全ての学生が企業や国際機関等における長期インターンシップ等の学外での学びに取り組む。事前・事後及びセメスター期間（原則として4か月以上¹⁸）を通じた一連の学修を経て、12単位を修得する。

2022年6月の三省合意の改正を受け、インターンシップの実質化が進みつつあるが、多くは短期間にとどまり、教育上の効果には限界がある。他方、欧州では、半年から1年に及ぶ長期インターンシップを教育課程に取り入れる取組が定着しており、専門性と実践力の醸成に大きく寄与している。

Off-Campus Experience では、企業や自治体、国際機関等の協力を得て、世界の多様な課題やビジネスの現場に触れる。これにより、これまでに学んできた知識やスキルが社会においてどのように活用されるか、また自らが企業や国際機関にいかに関与できるかを体感する。その過程で、課題を発見する力、クリエイティブに考える力、課題に対して様々な方法でアプローチする力など、理論だけでは得られない実践力を養う。さらに、専門家や多様な価値観や文化を有する人々との対話・協働を通じて自己を相対化する経験を重ね、共に課題解決に取り組む姿勢を培う。併せて、コミュニケーション能力やリーダーシップといった汎用的能力を培うとともに、社会的責任や倫理観への自覚を深めていく。

学生は、3年次までの学びの中で、学びを継続する姿勢と、学際的な知を自律的に獲得する能力を身に付けたうえでインターンシップに臨む。インターンシップに先立ち、学生はインターンシップ計画書を作成する。本計画では、自身の学びの概要と関心領域、関心を有する社会課題や価値創造のテーマ、これらと3年間の授業等での学修との接続、関心のある企業・業界の領域、さらにインターンシップを通じて得たい経験や知見などを整理する。インターンシップ計画は、教員によるアドバイジングや進級判定時に面談材料としても用いる。

他方、受入企業等には、取り組む課題の内容や求められる能力・スキル（ジョブディスクリプションに相当する情報）、指導体制、フィードバック方法等を提示してもらう。大学と企業等との継続的な対話と協働を通じて、UTokyo College of Design の教育理念や目的を十分に伝え共有したうえで、大学の責任の下、各企業等の特性を踏まえたインターンシップを設計していく。

事前学修では、実習計画の作成と担当教員によるフィードバック、受入先企業・業界の研究、派遣国・地域ごとの文化や慣習・歴史認識・社会情勢の理解のほか、受入先で求められる技能やスキル、安全講

¹⁸ セメスターにおける授業期間（10月から翌年1月まで）での実施を標準とするが、企業等との調整により開始・終了時期が前後したり、延長（期間や内容に応じて別途単位を認定）したりする場合がある。なお、単位時間数については、1単位を45時間で積算した場合、12単位で計540時間、1日8時間・週5日の就業を仮定すると実施日数は約70日、すなわち約4か月が実施期間となり、12単位に相当する十分な学修時間を確保している。

習などを行う。

インターンシップ期間中は、インターンシップチーム（担当教員 10 名程度及び複数名の専任職員で構成）が中心となり、学生の活動等を把握する。担当教員が週次で学生の状況確認及び学修上の助言・指導を行うとともに、企業メンターを含む三者で月次の進捗確認を行う。さらに状況に変化がある場合や課題や懸念が生じた場合には随時対応する。これらの定期及び随時の交信によって、インターンシップの安定・安全な継続を図ることに加え、それまでに学んだ学術知と実践の関係の考察や、学術視点からの課題発掘や貢献などを促し、学びの統合や新たな動機付けを継続する。

インターンシップ終了後（事後学修）は、教員や受入先による評価やプレゼンテーションへの講評等を通じて活動を振り返り、自身の成長を確認する。これらを通して、新たな視点の獲得と自身のキャリアへの考察を促す。

なお、インターンシップは通算 1 年間までの継続を可能とする。その場合、当該実習期間を考慮し、後掲「Capstone Group Design Project」との単位振替を行う。

インターンシップ等の運営・支援体制等については、後掲「6 インターンシップ等の学外実習を実施する場合の具体的計画」で詳述する。

⑧ Capstone Design Project

「Capstone Design Project」は、4 年次後半で行うグループ形式と 5 年次に行うソロ形式の 2 つを設けている（本設置資料では、学士課程教育に相当する 4 年次の「Capstone Group Design Project」を中心に示す。）。

「Capstone Group Design Project」は、学生がこれまでに修得した知識やスキル、学内外での学びや経験を統合し、グループでデザインプロジェクトを企画・実践すること、また、その過程を通じてコミュニケーション能力、ファシリテーション能力を強化し、リーダーシップを発揮することを目的とする。4 年次後半の選択必修科目（一定の条件のもとで長期インターンシップや海外留学の選択が可能¹⁹）であり、セメスターを通した一連の学修を経て、8 単位を修得する。

プロジェクトではまず、社会的課題の発見と特定から、分析、文脈化するプロセスに取り組む。その際、これまでに習得したデザインアプローチを活用しながら、社会的課題と機会に対する革新的で実現可能な解決策を提案する。提案内容は測定可能な社会的インパクトをもたらすことを求める。重要なことは「変える」ことであり、そのための「具体的な成果物」を創出することを重視する。従来のプロダクトやサービスに拘ることなく、学生自身がデザインの限界を押し広げ、課題解決を試みる。

グループ編成及びテーマ設定は、学生が自主的に提案する。その際、Change Maker Design Projects での経験を活かす。各グループは 5 名程度を推奨し、各学生の興味・専門性・作業スタイル・強みと弱みなど多角的観点から編成することを求め、編成理由を教員が確認したうえで、必要に応じて調整を図り、授業開始直後までに決定する。学生には、スタジオ等での授業時間外の活動も含めて主体的にプロジェクトを進めていくことが求められる。各グループには、各グループのテーマ（例えば環境、技術、社会システム、人間・文化など）に応じてメインアドバイザーを置く。加えて、より専門的な観点からの助言・指導を行うレギュラーアドバイザー、学内外の教員や専門家等によるゲストアドバイザーを配

¹⁹ 4 年次前半の長期インターンシップの継続や協定校への留学等を対象とし、「Capstone Group Design Project」に相当する内容及び学修時間であると教育会議が認めた場合。なお、やむを得ない事情により学士課程段階での学修終了を認める必要が生じた場合には、卒業研究・卒業制作に相当するものとして必修とする。

置する。週1回程度のプロジェクトレビューチュートリアル（PRT）（プロジェクト型学修を進める過程で、教員や外部の専門家の前でプロジェクトの進捗を発表・レビューしてもらう機会）を義務付けるとともに、プレゼンテーションの機会を設け、学内外のアドバイザーからフィードバックを得るとともに、学生同士のピアレビューを行う。加えて、学内外の必要なリソースへ積極的にアプローチすることも求める。これらを通じてプロジェクトを計画的に遂行し、成果を発表する。また、学生ごとに最終成果をドキュメントとしてまとめる。

「Capstone Solo Design Project」は、UTokyo College of Designにおける学びの集大成として、各学生が自ら設定した研究課題に基づき、研究指導を受けながら自律的にプロジェクトを推進し、その成果を審査・発表する一連のプロセスである。5年次の授業科目（修士課程相当のコースワーク）の履修と並行して、研究目的の明確化、先行研究及び関連事例の整理、研究方法の妥当性や実現可能性の検討、必要に応じた倫理審査への対応等について、継続的かつ個別的に指導を行う。また、複数の教員・専門家等からなるアドバイザー・グループを形成し、中間発表やレビューを通じてフィードバックを得ることにより、研究内容の深化と妥当性の確保を図る。

（４）主要授業科目についての考え方

UTokyo College of Design の教育課程は、1）デザインの方法論とスキルの獲得及び実践、2）幅広い学術知の獲得、3）社会課題解決に向けた社会と連携した実践経験の3つを柱とする。8つの授業科目群のうち、とりわけ「Change Maker Design Projects」は、デザインの技法とスキルに多様な学術知を融合させることで、社会課題に対する深い理解と課題解決や価値創造に取り組む総合力、実践力を養う授業科目群である。また、「Capstone Group Design Project」は、学位授与方針に示した各要素を統合的に培う授業科目である。これらの授業科目（群）は、上述の3つの柱を統合的に具現化するものであることから、教育課程上主要な授業科目として設定する。

5 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(1) 教育方法

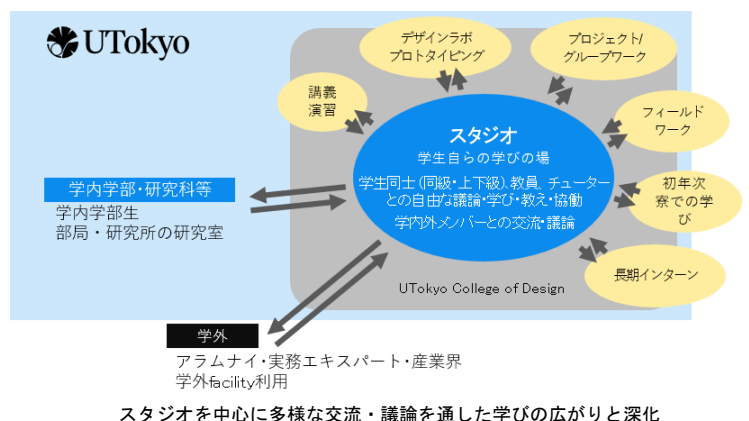
以下では、教育方法の考え方や基本設計、学修効果を高めるための工夫などについて記載する。

① 教育方法の基本的な考え方

UTokyo College of Design の教育方法は、徹底したアクティブラーニング、学生本位の主体的学びを特色とする。知の拡大と細分化が進む現代においては、多様な分野や現象に挑み、学術領域の境界に壁を設けずに学びを広げる姿勢が重要である。UTokyo College of Design は、そのような学びの場を不断に提供し、学生が授業時間外においても主体的に学びを追求することが自然に行われる環境を整える。同時に、教職員は、学生の学びへの情熱を支え、理念を共有して教育実践に取り組む。

この理念を具現化するために、授業科目の目的及び特性に応じて、プロジェクト型学修（PBL）、グループワーク、反転学習、フィールドワーク、展示等を組み合わせ、能動的な学びを促進する。各授業では、リーディングアサインメントや事前課題の提示に加え、関連する学術リソースやデジタル教材の活用、更にはオープンな問いかけを通じて、学生が自らの学びを広げ、主体的に深めていけるよう支援する。アカデミック・アドバイジング（後掲参照）等も活用し、学生を日常的に支援する。

授業内外での学びの中核として「スタジオ」を活用する。ここでは、Open Studio Model（学生が物理的・心理的に開かれた空間で、教員や他の学生と継続的に対話しながら学修を進めるスタジオ型教育）と呼ぶアプローチを採用する。開放的な空間のもと、同級生や先輩後輩、実務家、国内外の有識者など学内外の多様な人々が入り出し、自由で創造的な議論・学び・教え合い・協働・実践の場として機能する。



スタジオを中心に多様な交流・議論を通した学びの広がりと深化

授業規模については、1 授業科目当たりの学生数を原則 30 人程度以内とし、その実現が可能となるよう授業科目数及び時間割の配置を設定する。8 Track Design Series の初回及び最終回、並びに IF などの一部授業科目は、1 学年全員（約 100 名）が一堂に会する形式をとる。これにより、学年全体としての一体感を醸成するとともに、多様な仲間との相互刺激や学修の節目を共有する機会とする。その上で授業内容に応じてチーム別のグループワークなどを取り入れる。

時間割編成においても、学生の主体的学びを促す独自の工夫を組み込む。UTokyo College of Design の教育は、デザインと学術知が両輪を成しており、午前中に多様な学術の基礎・展開を学ぶ IF・IP 科目、午後にデザインの基礎や実践、更にスタジオでの授業と準正課活動を接続した学びを充てることで、知の獲得と実践の往還を日常的な学修リズムとして確立する。ターム制（4 学期制）を効果的に活用し、少数科目に集中して深い学修を積み重ねるモジュール方式による短期間集中授業を展開する。加えて、一定の曜日や時間帯を計画的に授業から解放し、授業で得た知識の確認や自主的な学修、自由な思考に充てる時間を確保することで、学修の幅と深さを広げる。

時間割イメージ（1年次）

	月	火	水	木	金
8:30-10:15 (1限)	IF①			IF①	
10:25-12:10 (2限)		IF②	VS		IF②
13:00-14:45 (3限)	DS①	DS①		DS①	DS①
14:55-16:40 (4限)	スタジオ等 (事前・事後学修) (準正課活動)	スタジオ等 (事前・事後学修) (準正課活動)		スタジオ等 (事前・事後学修) (準正課活動)	スタジオ等 (事前・事後学修) (準正課活動)
16:50-18:35 (5限)					
18:45-20:30 (6限)					

※ 多様な教員、上下級生、学内外、社会との交流機会、学びの発展、知の実践的な定着

授業は全て英語で実施する。これは授業の英語化そのものを目的とするのではなく、多様な背景を有する学生が共に学ぶ教育環境を実現するための手段として位置付けるものである。

上述した基本的な考え方の実践にあたっては、教員個々の自主性や裁量のみに委ねるのではなく、ファカルティ・ディベロップメントを通じて教育理念並びに望ましい教授法の共有を全教員に徹底する。IF 及び IP 全体、IP 領域毎の責任者を置き、授業の設計趣旨や内容・方法、成績評価の方針等を統括することで、各授業科目群の教育の質を常に確保する。デザイン系授業科目についても、責任教員の統括の下、専任教員を中心として組織的に授業科目を運営する。

学生や教員相互による授業評価、ラーニングアナリティクス（教育効果検証）を組み入れることで、自律的な教育改善サイクルを確立し、内部質保証を徹底する。

UTokyo College of Design における学びと学修支援の全体像を別紙 2 に示す。

② 大学での学びへの円滑な移行

UTokyo College of Design は 9 月入学であるため、特に日本人学生については高等学校卒業から入学までの間に一定の期間が生じる。この期間を活用し、授業に必要な英語力や新生活への不安の軽減を図り、大学での学びへの円滑な移行を支えるため、入学前教育サポートの一環として、教員や在学生との定期的なオンラインセッション等を設ける。アドミッション・ポリシーに基づき一定の英語力を求めているが、日本人学生及び英語を母語としない外国人留学生については、日常的に英語でコミュニケーションを行う機会が十分でない場合も想定される。このため、授業や日常的なコミュニケーションに不安や支障が生じないよう、この機会を通じて、発信力及び対話力を中心とした実践的なコミュニケーション能力の向上を図る。また、生活レベルでの日本語能力に不安がある学生（目安として CEFR A2 未満又は JLPT N4 未満）には、本学グローバル教育センター（GlobE）の協力を得て、オンライン日本語学習プログラムの履修を推奨する。

入学直後には、本格的な授業開始に先立ち、オリエンテーションや「Academic Communication」（17 頁参照）を通じて、大学教育に必要なマインドセットを形成し、安心して学生生活を開始できるよう支援する。

③ 初年次全寮制

全ての学生は、入学後 1 年間、寮生活を送る。「目白台インターナショナル・ビレッジ」（東京都文京区目白台）の 1 フロア全体を UTokyo College of Design の学生専用割り当て、共同生活を通じて学生同士の強固な信頼関係を構築するとともに、多様性の中で協働することの価値や難しさを実体験する。

居室は全て個室であり、プライバシーを確保する一方で、共同スペース等を活用し多文化的な交流や協働を促進する。寮には、レジデント・アシスタント（RA）（若手研究者や大学院学生）を配置し、生活面やメンタル面での相談や支援を行う。また、DEI への意識の涵養やハラスメント防止に関する研修を実施し、誰もが安心して生活できる環境を整える。なお、経済的困窮を抱える学生に対しては家賃補助を行い、修学機会の均等を確保する。

④ 学修成果の評価方法・基準

学修成果の評価については、教育課程の編成・実施方針において、授業の目標や特性に応じた方法・基準を用いて適切に行うことを定めている。アクティブラーニングやプロジェクト型学修を重視する観点から、最終試験のみに依拠するのではなく、課題、レポート、議論や作業へのコミットメントの状況等を含め、多面的かつ総合的に学修成果を把握する。各授業科目の到達目標、評価方法及び評価基準はシラバスに明示し、履修前に提示する。授業科目群ごとに責任教員を配置し、授業の設計趣旨や内容・方法、成績評価の方針等を統括することにより、各授業の教育の質を確保するとともに、客観的かつ厳格な成績評価を行う。

ワークショップやプロジェクト型学修においては、学修過程全体に対する取組と最終成果の質を総合的に評価する。成果については、スキルの熟達度、独創性、アウトプット及びプレゼンテーションの完成度等を主要な観点とし、グループワークでは個人の貢献とグループ全体の成果の両方を鑑みて評価する。インターンシップについては、教育目標やジョブディスクリプションへの貢献状況等について、実習中の活動記録、実習先指導担当者の評価、レポート及びプレゼンテーションの内容等を総合的に評価する。これらの評価は授業の特性に応じてルーブリックを用いるなどして行い、透明性と妥当性を確保することで、学生の主体的な学修を一層促進する。

成績評価は、Academic Communication 及び Viewpoint Series 科目を除き、優上・優・良・可・不可の5段階評価とする。

なお、成績評価については、本学の成績評価に関する申し合わせに基づき、「優上」の割合は上位5～10%程度、「優」以上の割合は30%程度（いずれも未受験者を除く。）を目安とし、履修学生の規模など当該授業科目の実施態様に応じて適切に判断する。

また、成績評価の適切性の確認や異議申し立ての仕組みを組織的に設ける。

（２）履修・学修支援の方法

① 養成する人材像に照らした履修モデル

前掲「1（３）養成する人材像及び3つのポリシー」で示したように、UTokyo College of Designにおいて養成する人材像は、デザインの社会的役割や適用範囲の広さに対応して様々な領域にわたる。また、起業や企業内におけるイノベーションにとどまらず、今はない新たな社会的役割や職業を創出する、新機軸の人材の育成を目指している。このような理念に基づき、特定の進路を一律に定めるものではないが、学生の学びの具体像を示すため、別紙3のとおり、履修モデルを例示する。

② 相談支援体制（アカデミック・アドバイジング等）

UTokyo College of Design では、学生自らが学びのパスを構築する主体的な学びを重視する。1年次の必修科目の履修を通して学生の視野が広がり、2年次以降はIPやChange Maker Design Projectsな

ど多様な授業科目や学修機会が展開していく。こうした学びの広がりの中で、学生一人ひとりが探究を深めていくためには、知の大海原を進む中で羅針盤を見失わないよう、対話や助言が不可欠である。さらに、AI 技術の急速な進化は学びの在り方自体を大きく変えようとしている。個々の学生の挑戦や成長を適切に支える仕組みが重要となる。

このような考え方にに基づき、UTokyo College of Design では、学生一人ひとりの主体的な学びを日常的かつ継続的に支援するため、多層的な相談支援体制を設ける。具体的には、スタジオを学びの中核に据え、学生と教員が日常的かつ密接に関わる中で強固なコミュニティを形成し、個々の学生の学修状況やつまづき、課題等を早期に把握し、適切な助言・支援につなげる（別紙4参照）。これにより、学生のウェルビーイングを支えるとともに、困難に対応しながら学修を再構成し深化・発展させる力（学修上のレジリエンス）を育む。全ての専任教員がアカデミック・メンターとなり、個々の学生の学修プロセスを継続的に見守りながら、日常的、また各学年の節目等において適時にアドバイジングや学修・履修相談を行う。IP 領域に関わる専門的な内容については、各主査や専任教員がアドバイジングを行うほか、学内外の教員、企業等のエキスパートなども関わり支援する。

スタジオ内には個別相談が可能なブースも設け、学生が気軽に安心して相談できる環境を確保する。さらに、学生同士がピア・メンターとなることで、学生目線で様々な相談に応じる。加えて、アカデミック・アドバイザーを置き、メンター間の情報共有やファカルティ・ディベロップメントを通じて教育理念や支援方針の共有・徹底を図り、相談支援体制が一体的かつ多層的に機能するよう必要な調整を行う。

長期インターンシップの実施に当たっては、担当教員や専任職員が企業等とのマッチングに関する相談・支援を担う。4 年次以降は、主に Capstone Design Project のアドバイザー教員が学修上の相談に応じる

相談支援に当たっては、学修ポートフォリオを活用し、学生一人ひとりの学修歴、学修状況、進路に関する意向等を継続的かつ丁寧に把握し、個人情報保護に留意しつつ、学士・修士 5 年一貫の特性を踏まえた学修相談・支援を行う。また、学修状況等の把握を通じた検証を継続的に行い、その結果を学修支援に活用する。

③ 課外教育

批判的思考や創造的活動を展開し、学術探求を深めるうえで、アカデミック・ライティングの習得は基盤的なスキルとなる。日本人学生や英語を母語としない外国人留学生在が円滑に学修を進めることができるよう、「Academic Communication」の履修や各授業の進行と相補的にアカデミック・ライティング支援を課外で提供する。

また、UTokyo College of Design には教育背景が異なる学生が集うため、初等中等教育段階での学習歴に差がみられることが想定される。アカデミック・メンター等の助言やオンライン教材等を通じた主体的学修を基本とするが、数学等の基礎的理解を要する科目については、希望する学生が学びを補えるよう、ターム切替期や春季休暇期間等を活用して補習教育を実施する。対象は数学、日本語など、入学者の学力や要望を把握しながら柔軟に設定する。

④ 指導補助者の活用

討議やグループワークの円滑かつ効果的な実施を図るため、原則として全ての授業科目にティーチン

グ・アシスタント（TA）を配置する。東京大学ではTA研修を必須としており、独自に開発した教材を用いて基礎的な知識を学んだうえで指導補助に当たることとしている。

スタジオには、教員や技術的支援が可能な職員（Technician）が常駐し、日常的に学生の活動を支える体制を整える。

⑤ 外国人留学生への支援体制

外国人留学生の在籍管理、履修指導及び生活指導については、全学組織であるグローバル教育センター（GlobE）等と連携しつつ、UTokyo College of Designの専任教職員が責任をもって行う。在留資格の更新手続や出欠・成績状況の把握等については専属の事務体制で適切に対応し、高い語学能力を有する担当者を複数名配置して学修面・生活面双方の相談に対応できる体制を整える。

履修指導や生活支援については、前掲のアドバイジング制度に基づき、学生が安心して相談できる環境を確保する。寮には、英語対応可能なレジデント・アシスタント（RA）を配置し、特に日本での生活の立ち上げや異文化環境における共同生活をサポートする。さらに、大学負担により全ての外国人留学生を民間の外国人受入サポートサービスに加入させ、母国語での医療相談などを含む緊急時対応を可能とする。これにより、不慣れな生活環境においても安心して学修と生活を継続できるとともに、学生の心身の健康維持につながるバックアップ体制を構築する。

（３）卒業要件

① 授業科目の配当年次等の考え方

UTokyo College of Designの教育課程は、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針に基づき、段階的に学びを発展させるよう設計している。１年次は、「Academic Communication」、「Interdisciplinary Foundations（IF）」及び「8 Track Design Series」を必修として、幅広い学術基盤とデザインの理論・方法論・技法を体系的に修得する。２・３年次は、１年次に修得した知識やスキルを基盤として、「Interdisciplinary Perspectives（IP）」と「Change Maker Design Projects」を中心に、学術知とデザインを統合するプロジェクト型学修を展開するとともに、「Viewpoint Series」により最先端の動きや最新の社会的・環境的課題のフロンティアに触れながら学びを補完し、デザインのあり方を多角的に探究する。４年次前半は「Off-Campus Experience」（長期インターンシップ等）を必修とし、実社会での協働を通じて知の応用と自己相対化を進める。４年次後半は「Capstone Group Design Project」により学修成果を統合し、社会への価値創出として結実させる（５年次はコースワークと並行してCapstone Solo Design Projectを実施）。

なお、学生が授業選択を検討する際の一助となるよう、科目ナンバリングを設ける。

科目ナンバリングの例（11IP-ES201）

1	1	I	P	E	S	2	0	1
所属コード		授業科目群を表すコード (例：IF, DS, IP, CMP など)		学術分野 (例：Environment & Sustainability-ES)		履修レベル (推奨年次)	整理番号	

履修科目の年間登録上限（CAP 制）は設けていない。前掲のとおり、科目編成や時間割設計上の工夫により主体的学修を可能とし、これにより単位の実質化を図る。さらに、学生の履修状況については、

アカデミック・アドバイザーによる継続的な助言や、ラーニングアナリティクスの活用を通じて必要に応じた履修指導を行う体制を整える。これらの仕組みにより、学生の主体的学修の拡充に適切に対応し、単位制度の趣旨を踏まえた運用を実現する。

② 卒業要件

価値創造学部の卒業要件単位数は 124 単位とする（学士・修士一貫課程の修了要件単位数は 154 単位）。各授業科目群における必修・選択必修等の区分及び卒業要件単位数は下表のとおりである。

なお、卒業要件単位数のうち、IF 及び IP の単位数が半数を占める。これは、本学の特性を生かし、多様な学術知とデザインの融合を重視する UTokyo College of Design の教育理念を踏まえた単位配分である。

授業科目群	必修等	開講方式	卒業・修了要件	配当年次
Academic Communication	必修	集中	4 単位：2 単位×2 科目	1 年次
Interdisciplinary Foundations(IF)	必修	ターム	18 単位：2 単位×9 科目	1 年次
8 Track Design Series	必修	1/2 ターム	16 単位：2 単位×8 科目	1 年次
Interdisciplinary Perspectives(IP)	選択必修	ターム	40 単位以上：2 単位×20 科目以上 4 年次までに 28 単位以上	2～5 年次 主に 2, 3 年次
Change Maker Design Projects	選択必修	ターム	28 単位以上：4 単位×7 科目以上	2～4 年次
Viewpoint Series	選択必修	通年	6 単位：2 単位×3 科目 4 年次までに 4 単位以上	1～5 年次
Off-Campus Experience	必修	セメスター	12 単位	4 年次前半
Capstone Group Design Project	選択必修	セメスター	8 単位【※1】	4 年次後半
上記の科目群ごとの要件単位数の他に修得しなければならない単位数			6 単位【※2】	—
学位要件 学士課程 124 単位				

※1 留学先（原則協定校）で修得した単位については、8 単位を上限として、Capstone Group Design Project に相当するものとして単位を認定し、卒業単位に算入する。また、Off-Campus Experience の長期インターンシップを 4 か月以上、通算 1 年以内の範囲で継続する場合には、Capstone Group Design Project に相当するものとして単位を認定する。ただし、いずれの場合も、やむを得ず学士課程で学修を終える者には適用しない。

※2 授業科目群ごとの要件単位数を満たしたうえで、Interdisciplinary Perspectives (IP)、Change Maker Design Projects、Viewpoint Series、他学部又はグローバル教育センターの科目のいずれかから、4 年次までに 6 単位分を修得。

③ 進級制の導入

UTokyo College of Design では、教育の質を保証しつつ学生の学修を着実に進展させるため、進級制を導入する。単位制度の実質化と厳格な成績評価の下で、授業科目群ごとに定めた修得単位数に基づき進級の可否を判断する。具体的には、1 年次終了時、また長期インターンシップ等の学外での学びへの円滑な接続を図る観点から 3 年 A セメスター終了時に進級判定を行う。進級判定に伴う留年回数の上限は 1 回とし、これを超える場合には、在学年限満了による退学とする。

米国をはじめとする海外の大学においては、進級や卒業に関する判定が厳格に行われており、学修成果の質保証や学修意欲の維持に大きな役割を果たしている。本学における進級制の導入も、こうした国

際標準を踏まえたものであり、適度な緊張感の下で学修に臨むことにより、履修行動の適正化、モチベーションの維持・向上、学修困難者の早期把握に資するものである。

他方、進級制の運用にあたっては、十分な学修支援体制を整備することが不可欠である。前述したアカデミック・アドバイジングを通じた履修指導、成績評価基準の多元化・明確化と事前の提示、授業期間中を通じた助言・指導、更にはメンタルケアを徹底し、学生一人ひとりが主体的に学修を継続できる環境を整える。

6 インターンシップ等の学外実習を実施する場合の具体的計画

(1) インターンシップの概要及び受入先確保の状況

UTokyo College of Designでは、3年次までに修得したデザインの方法論や幅広い学術知、更にChange Maker Design Projectsで培った経験を通じて、実際に社会を見ることにより、学びを実社会につなげ、社会に貢献する態度を身に付けることを目的として、「Off-Campus Experience」を4年次の必修科目として設定している。本授業科目では、全ての学生を対象として、企業や国際機関等におけるインターンシップを実施する。

インターンシップの受入先については、本学及びUTokyo College of Designの教育理念に共感していること、「Off-Campus Experience」の目的・到達目標に対応した実習が可能であることなどを条件として示しつつ企業・機関等との対話・協議を進めており、別紙5のとおり、2026年7月31日時点で国内外の90の企業・機関等が学生の受入に賛同している。企業・機関等への情報発信や協議を継続的に進めており、賛同企業・機関等は順次増加している。したがって、学生と受入先とのマッチングが開始される2029年度時点では100を上回る受入先が確保できる見込みであり、複数学生の受入が可能な企業・機関等を含め100名規模の学生を派遣する体制を確保できる見通しである。受入先については、継続的に開拓を進め、安定的な確保及び更なる選択肢の拡大を図る。なお、新規受入先については、上述の条件などを総合的に勘案し後述のインターンシップ実施委員会において組織的に確認する。

なお、学生を実社会の一員として扱い、主体的に活動に取り組むことを重視する観点から、企業等からの対価支給を基本とするなど、派遣中を含め必要な支援を行うことにより、全ての学生が経済的な理由によってインターンシップに参加できなかつたり、派遣先が限定されたりすることがないようにする。

(2) インターンシップの運営・支援体制及び実習先との連携

インターンシップの実施・運営に係る学内の意思決定体制として、UTokyo College of Design 運営会議（41頁参照）のもとに「インターンシップ実施委員会」（以下、「実施委員会」という。）を設置する。実施委員会は、教員及び専任職員複数名で構成し、基本的な方針・手続き等の検討及び策定、新規受入先の承認等を担う。実施委員会に加えて、担当教員10名程度（実施委員会委員を含む）及び複数名の専任職員（学務・学生支援担当事務）で構成される「インターンシップチーム」（以下、「チーム」という。）を置く。チームは、受入先との連絡調整、学生・企業等向け説明会の企画・開催、学生と受入先とのマッチングなど、インターンシップ実施に向けた一連のプロセスを担う（別紙6参照）。

チームの担当教員は、学内におけるメンターとなり、教員1人当たり10名以内程度の学生を受け持ちながら、個々の学生の相談や事前事後学修及びインターンシップ期間中の助言・指導並びに成績評価を担当する。チームの専任職員は、受入先との契約締結やマッチング、海外インターンシップに係る渡航準備支援、派遣中の学生のケア等を担当する。

チームの担当教職員は、受入先の連絡担当者及びメンター（指導・助言担当）と緊密に連携し、実習開始の1年前までを目途に、目的を受入先と十分に共有し、個社毎のインターンシッププログラムを構築するなど、具体的な調整に着手する。なお、各受入先に対しては、メンターの基本要件として、社会人経験が原則5年以上であること、実習施設又はプロジェクト等において人材育成の経験があることなどを依頼する。

学生の受入先の選定に際しては、本学との十分な調整を経て受入先が作成するジョブディスクリプシ

ョン（業務内容や労働条件に加え、必要に応じて参加に当たっての要求条件を含む）及び学生が作成する調書（インターンシップへの期待や興味関心、達成目標等を含むプロフィール）を参考とし、更に学生と受入先担当者との面談を重ねるなどして、きめ細やかなマッチングを行う。

受入先決定後は、チームは学生及び受入先メンター等の連絡体制を構築し、受入先での定期的な活動報告の方法等を確認する。インターンシップ開始前から受入学生との交流の場を設けるとともに、事前学修を通じてインターンシップ等の効果的かつ計画的な実施に向けた準備を進めながら、インターンシップに円滑に接続できるよう学生と受入先との関係構築を図る。事前学修では、実習計画の作成と教員によるフィードバック、受入先企業・業界の研究、派遣国・地域ごとの文化や慣習・歴史認識・社会情勢の理解のほか、受入先で求められる技能やスキル、ビジネスマナーの習得、安全講習などを行う。

インターンシップ期間中は、学生及び受入先から定期的な報告を求めるとともに、受入先のメンター等とチームとが密に連絡を取ることができる体制を構築し、学生の活動等を把握する。チームの担当教員が週次で学生の状況確認及び学修上の助言・指導を行うとともに、企業メンターを含む三者で月次の進捗確認を行う。さらに状況に変化がある場合や課題や懸念が生じた場合には随時対応する。これらの定期及び随時の交信によって、インターンシップの安定・安全な継続を図ることに加え、それまでに学んだ学術知と実践の関係の考察や、学術視点からの課題発掘や貢献などを促し、学びの統合や新たな動機付けを継続する。

（３）成績評価基準及び体制等

成績評価は、インターンシップ期間における取組状況を中心に、受入先から提出される学生の活動状況に関する報告書、並びにインターンシップ実施後に学生が作成する活動報告書及び成果発表会の報告内容等を評価対象とし、事前学修等の状況も踏まえつつ総合的に行う。この際、必要に応じて、受入先のメンター及び連絡担当者への意見聴取を行う。

本授業科目の最終的な成績評価は、当該学生の担当教員による評価結果を踏まえ、実施委員会で合議のうえ決定する。

（４）危機管理体制等

学生の安全管理の徹底を図るため、学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険への加入を求めるとともに、国外に渡航する学生には海外旅行保険や危機管理サービスへの加入を義務づける。さらに、事前学修において、受入先と連携し、派遣国・地域ごとの文化や慣習・歴史認識・社会情勢の理解のほか、受入先で求められる技能やスキル、安全講習、予防接種、事故対応等について講義を行う。また、インターンシップに先立ち、大学と受入先、学生と受入先の契約を締結する際には、情報管理や知的財産の取り扱い等について契約を結び、情報漏洩等の防止に努める。

天災や政情不安などの派遣先国・地域の情勢については、外務省海外安全ホームページの国・地域情報等から常時情報を収集し、学生への情報周知と安全の確保に努める。実施の継続が困難と判断した場合、実施委員会を中心に、速やかに学生への連絡並びに受入先との協議を進め、学生の安全を第一とした然るべき対応を取る。

7 入学者選抜の概要

(1) 選抜方法

アドミッション・ポリシーにおいては、国内外を問わず、多様なバックグラウンドを有した、以下の資質等を持った学生を受け入れることとしている：①知力と学習能力、②優れたコミュニケーション能力及び英語力、③論理的思考力及び創造的思考力、④責任感、社会正義感、包摂性、⑤自主性及び協調性。本学部では、提出書類・資料・面接を通じた総合的評価（学力審査を含む）により、①～⑤の資質等を有する多様な学生を選抜する。

募集人数は100名で、全て一般選抜とする。入学者の教育的バックグラウンドを多様化する観点から、Route A・Route Bの2つの出願方法を設定し、出願者にどちらか1つを選択させる。Route Aは学力審査として大学入学共通テストを受験する出願者、Route Bは学力審査として東京大学が指定する統一試験を受験する出願者が対象であり、募集人員はRoute A、Route B各50名とする。Route Aは主として国内の高等学校等卒業（見込）者、Route Bは主として外国の高等学校や国内のインターナショナルスクール、国際バカロレア認定校等の卒業（見込）者が出願することを想定している。

Route A、Route Bのいずれにおいても、第一段階選抜として書類・資料による審査を行い、合格した者には第二段階選抜として面接審査を行う。

第一段階選抜における書類・資料の審査では、高等学校の学業成績（調査書又は成績証明書）、出願者が在籍する高等学校の教員等、出願者の学習能力を適切に評価できる人物による評価書、エッセイ、ビデオ課題、課外活動や学習成果を証明する資料等の提出を求める。これらの書類・資料により、出願者の「知力と学習能力」（資質①）に加え、「コミュニケーション能力」（資質②の一部）、「論理的思考力及び創造的思考力」（資質③）、「責任感、社会正義感、包摂性」（資質④）、及び個人の特性、才能、そして特定の環境で培われた経験を考慮することで、出願者の本学部での学びへの適性や将来の可能性を評価する。

また、「英語力」（資質②の一部）を客観的に評価するため、東京大学が定める英語能力検定試験の成績の提出を求める。ただし、Route B出願者には中等教育を英語で受けてきた者も含まれることが想定されるため、高等学校卒業から遡って4年間で、少なくとも3年間英語による教育を受けた、又は受ける見込みである出願者については、英語能力検定試験の成績の提出を免除する。

これらに加えて、「知力と学習能力」（資質①）を客観的に確認するために、Route Aの出願者には当該年度の大学入学共通テストにおいて指定科目（6教科8科目又は7教科8科目）の受験を必須とする。Route Bの出願者には、東京大学が指定する国際的な統一試験・資格、若しくは各国の統一試験等の成績の提出を求め、第一段階選抜の評価対象とする。

第二段階選抜は、Route Aは原則として東京大学に受験者を参集させ、個人面接を含む対面形式の選考を実施する。使用言語は英語及び日本語とする。Route Bはオンラインで30分程度の個人面接を実施し、使用言語は英語とする。面接審査においては、出願者の「優れたコミュニケーション能力及び英語力」（資質②）、「論理的思考力及び創造的思考力」（資質③）、「責任感、社会正義感、包摂性」（資質④）、「自主性及び協調性」（資質⑤）を評価する。

Route A及びRoute Bのいずれにおいても、出願者が経てきた教育制度や学力審査の基盤が異なることを踏まえ、単一の試験結果のみに依拠するのではなく、アドミッション・ポリシー及び評価観点に基づき、提出書類・資料及び面接結果を総合的に評価する。審査に当たっては、評価基準・評価の観点を

あらかじめ明確に定めて担当教員間で共有し、複数の審査者による評価を行うとともに、多様な専門分野、背景、経歴を有する専任教員が、選抜方針及び評価観点の共有、書類審査・面接審査の分担、判定過程への参画等、それぞれの役割に応じて組織的に関与する体制を整える。これにより、特定の学問分野や価値観に偏らない選抜を行う。さらに、日本語、英語の両言語に堪能なアドミッション担当職員が書類・資料の審査、面接審査を支援する。

（２）スケジュール

2027 年度入学者選抜においては、Route A、Route B とも出願受付期間は 2026 年 10 月 15 日午前 9 時～2026 年 11 月 5 日午後 5 時（日本時間）とする。

Route A の書類・資料の審査は 2026 年 11 月～2027 年 2 月上旬、第一段階選抜の合格発表は 2027 年 2 月 10 日、面接審査は 2027 年 2 月 15 日及び 16 日、最終合格者の発表は 2 月 20 日を予定している。

Route B の書類・資料の審査は 2026 年 11 月～12 月、第一段階選抜の合格発表は 2026 年 12 月 22 日、面接審査は 2027 年 1 月 13 日～1 月 22 日、最終合格者の発表は 2 月 20 日を予定している。

（３）外国人留学生への対応

外国人留学生の在籍管理や経費支弁能力の確認は、本学の他の学部・研究科での取扱いに準じて厳格に実施する。本学部では全て英語で教育を行うことから、外国籍の出願者に対しても日本語能力は求めず、入学者選抜における評価の対象ともしない。なお、外国人留学生を含め、全ての学生に対する履修指導は、本学部の専任として配置するアカデミック・アドバイザーを中心に全ての専任教員が実施する。

〈UTokyo College of Design HP「UTokyo College of Design （令和 9（2027）年 9 月開設予定）
令和 9（2027）年度入学者選抜の概要」〉

<https://design.adm.u-tokyo.ac.jp/jp/admissions/admissions-overview-2027/>

8 教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色

（１）教員配置の考え方

UTokyo College of Design は、デザインの方法論とスキルに加え、幅広い学術知の獲得を実現する教育を行うため、デザインを専門とする教員及び柱となる主要な学術領域を専門とする教員を合計 82 名配置する。

基幹教員を合計 21 名（教授 10 名、准教授 9 名、講師 2 名）配置し、主要授業科目である Change Maker Design Projects 及び Capstone Design Project については基幹教員が担当する。基幹教員の新規採用にあたっては国際公募を実施し、以下のような多様なバックグラウンドを有する基幹教員を配置している。

- ・出身国・地域（出身高校所在地）：13 の国・地域
- ・外国で学位を取得した教員：16 名（全体の 76%）
- ・男女比：男性 13 名（62%）：女性 8 名（38%）

基幹教員に加えて、本学の全学部との協力関係のもとで多数の現有教員が参画しており、東京大学が有する幅広く深い学術知を学生に獲得させる体制が整っている。各授業科目群には責任教員を配置し、学内外の担当教員を取り纏める役割を与えると同時に、各授業科目群内での教育方法・内容等について相互に助言可能な仕組みを構築し、各科目群の一貫性と教育の質を担保する。

UTokyo College of Design における研究対象は、広義の意味におけるデザインとその展開であり、社会課題の理解と解決並びに新たな価値創造を担う学術知・実践知としてのデザインを探究し、その理論的深化と応用的展開を図る。デザイン領域の教員と幅広い学術知を有する教員が協働して学内外の教育研究組織とネットワークを構築し、デザインに関わる教育研究の高度化と発展を図る。

（２）基幹教員の年齢構成等

基幹教員 21 名の年齢構成は、完成年度末時点で 40 代 5 名、50 代 12 名、60 代 4 名であり、継続的に教育研究水準の向上及び活性化を図ることが可能な、バランスのよい年齢分布である。本学における定年年齢は 65 歳であり、本設置計画において学年進行終了時（完成年度）前に、本学の規程²⁰の定める退職の年齢を超える基幹教員はいない。

なお、教育研究活動等の運営や厚生補導等が組織的かつ効果的に行われるよう教育会議等を設置し、教員と事務職員等（総務・財務担当 15 名程度、教育・学生支援担当 20 名程度）が密に連携できる体制を構築する。さらに、教育・学生支援業務等において、豊富な知識と経験を有する職員に一定の責任と権限を与えて適切に配置することで、職員の裁量を拡大し、組織として合理的かつ迅速な意思決定が可能な体制を構築する。

²⁰ 本学 HP「東京大学教員の就業に関する規程」https://www.u-tokyo.ac.jp/gen01/reiki_int/reiki_syuki/syuki06.pdf

9 研究の実施についての考え方、体制、取組

(1) 研究推進体制

本学は、人類社会が直面する地球規模の課題（健康、経済格差、ジェンダー平等、紛争や分断、エネルギー、資源循環、気候変動等）に関し、本学が有するあらゆる分野の英知を結集してその解決に取り組むことを目指しており、各学部・研究科等、附置研究所、学内共同教育研究施設、国際高等研究所、学際融合研究施設、全国共同利用施設等において研究活動を実施している。

また、総長及びプロボストのリーダーシップの下で全学として推進すべきプロジェクトや、領域横断的な教育研究プロジェクト等に対応するため、プロボストオフィスのもとに研究組織を設置している。

UTokyo College of Design では、広義のデザインを研究対象とし、社会課題の理解と解決並びに新たな価値創造を担う学術知・実践知としてのデザインを探究し、その理論的深化と応用的展開を図る。ここでいうデザインは、造形や表現の技法にとどまらず、社会や制度、人々の営みに変化をもたらす創造的なプロセス全般を指す。その射程は、人文科学、社会科学、自然科学、工学、生命科学、情報学など、東京大学が有する多様な学術領域に及ぶ。

また、価値創造デザイン推進基盤、芸術創造連携研究機構（ACUT）、未来ビジョン研究センターをはじめとする学内研究組織との連携や、東京藝術大学等との包括的な連携を活用し、デザインに関わる教育研究の高度化と発展を図る。

さらに、海外大学との国際的ネットワークを有する教員が多く参画することを活かし、Imperial College London、Royal College of Art、University of Cambridge、MIT、National University of Singapore、National Taiwan University、KAIST、Tsinghua University、Hong Kong Polytechnic University など、デザイン教育において先進的な海外大学との研究交流を行い、将来的な部局間交流協定の締結を見越した関係性を構築する。

(2) 研究支援体制

本学では、研究者支援の取組として、本学及び政府機関等が実施している研究者向けの支援制度を一覧化したパンフレット（研究者支援制度パンフレット）を発行しているほか、最新情報を学内限定のウェブサイト「UTokyo Research Support」に掲載している。

〈本学 HP「研究者支援制度パンフレット 2025」〉

<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/research/systems-data/support.html>

また、「東京大学リサーチ・アドミニストレーター制度に関する実施方針」を策定し、本学における URA の役割等を以下のとおり定義づけている。

本学において、URA とは、総合大学である本学の学術研究に係る諸活動を幅広く推進し、学術研究を安定的かつ継続的に進展させることを目的として、高度な専門性を持って、次の各号に定める業務を主体的に行う能力を有する者である。

- ① 本学の学術研究に関わる調査・分析並びに企画立案業務
- ② 研究資金獲得に向けた調査、企画立案、内外折衝、申請等の業務

③研究資金獲得後の研究に関わる管理運営、評価、内外折衝、報告等の業務

④その他前各号の業務に関連する業務

本学では、優れた URA の確保・育成に向けて 2016 年度より独自の URA 認定制度を設けており、2025 年度末までに累計 136 名の認定を行い、2026 年 3 月時点で、全学で 77 名の認定 URA が研究推進支援を担当している。そのほか、多くの部局において、学術専門職員等、研究活動支援にあたるスタッフが多数配置されており、研究活動を支える仕組みが整備されている。

〈本学 HP「東京大学リサーチ・アドミニストレーター制度に関する実施方針」〉

https://www.u-tokyo.ac.jp/gen01/reiki_int/reiki_honbun/u0741062001.html

〈本学 HP「UTRA Commons」〉

<https://www.ura.adm.u-tokyo.ac.jp/#gsc.tab=0>

このほか、「東京大学の科学研究における行動規範」²¹や「研究倫理アクションプラン ～高い研究倫理を東京大学の精神風土に～」²²、研究活動上の不正行為の防止に関する規則²³等を整備し、研究倫理教育の実施等を通じた研究不正の防止に努めている。

UTokyo College of Design では、事務組織に語学能力に長けた研究支援担当職員を配置し、日本語話者ではない教職員の競争的資金の申請をサポートするなど、研究支援体制を整備する。

²¹ 本学 HP「東京大学の科学研究における行動規範」<https://www.u-tokyo.ac.jp/content/400006403.pdf>

²² 本学 HP「研究倫理アクションプラン ～高い研究倫理を東京大学の精神風土に～」
<https://www.u-tokyo.ac.jp/content/400006402.pdf>

²³ 本学 HP「国立大学法人東京大学における研究活動上の不正行為の防止に関する規則」
https://www.u-tokyo.ac.jp/gen01/reiki_int/reiki_honbun/au07410491.html

10 施設、設備等の整備計画

(1) 校地、運動場の整備計画

UTokyo College of Design の教育研究を支える校地は、本学の本郷地区キャンパスである。本郷地区キャンパスは、敷地面積 559,176 m² を有し、本学の多数の学部・研究科等、附属研究所等の所在地となっており、本学における中心的なキャンパスである。附属図書館や保健センター、食堂等、学生の厚生施設が充実しており、UTokyo College of Design が他学部・他研究科等と共有できるだけの十分な施設を備えている。

本郷地区キャンパス内の御殿下記念館（ジムナジウム（体育館）、トレーニング室、プール、スタジオ）やグラウンド、武道場等、本学は合計 15,225 m² のスポーツ施設を有しており、学生は授業又は課外活動等で円滑に活用することができる。

また、同キャンパス内には、学生が休息や交流等に活用できるスペースとして、食堂や各施設の談話スペース・ラウンジ等が複数配置されている。これらに加え、UTokyo College of Design においては、学生及び教職員・学内外の関係者等が集い、自由に交流を図り、休息をとることも可能なスタジオを整備する。

(2) 校舎等設備の整備計画

UTokyo College of Design の構想を実現するためには、アクティブラーニング型の学修が可能な講義室 7 室、学生・教職員等が集い、議論や交流、共同作業等に活用できるスタジオ、教職員の研究室及び事務室等が必要となるが、そのために必要となるスペースを本郷地区キャンパス内の建物に確保済で、改修工事に着手し、2027 年 4 月に竣工予定である。これらの部屋数は、別紙 7 の時間割に示すとおり、各授業科目の実施に十分な数であり、講義室はアクティブラーニングを中心とした演習科目等の実施に適した設計となっている。スタジオは、UTokyo College of Design に関する機器・機材等が設置された学生及び教職員等の作業スペースである。

また、講義室やスタジオの付近に教員の研究室や面談室、事務室等を配置し、教職員と学生が容易に交流を図れる環境を整備する。

教員の研究室については、共同研究室を複数設置することで、基幹教員に限らず UTokyo College of Design に関わる全教員が利用可能な環境を整備する。また、個室を持たない教員が利用できる面談室を設置し、オフィスアワー等を設定することで、学生のプライバシーの確保が可能な環境を整備する。

(3) 図書館の資料及び図書館の整備計画

本学附属図書館（総合・駒場・柏の 3 拠点図書館と 27 の部局図書館から成る）の全資料数及び利用可能な電子リソース数は、図書 10,186,902 冊・電子書籍 49,674 点、学術雑誌 222,201 種類・電子ジャーナル 48,137 種類、データベース 100 点であり、特に電子リソースでは海外主要出版社のジャーナル、テキストブック等を数多く利用できる。本学のウェブサイト²⁴から、各種データベースやデジタルコレクション等を検索・利用することができ、自宅など学外からのアクセス環境も整備されている。

UTokyo College of Design の学生は、総合図書館をはじめ、学内の図書館を利用する。総合図書館

²⁴ <https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/contents/database>

は、十分な閲覧席数を有する閲覧室、書庫、ECCS（教育用計算機システム）ルーム、ラウンジ等の施設を有しているほか、学生が会話をしながら学習・研究目的での活動に使用できる別館ライブラリープラザを併設している。また、一部の期間を除き、原則として平日は9時から22時30分まで開館していることから、学生が授業の合間や授業終了後に資料を検索・閲覧・借り出すことが十分に可能である。なお、利用案内等やウェブサイト等については基本的に英語版を用意しており、日本語話者ではない学生や教職員の円滑な利用が可能である。

UTokyo College of Design において新設するスタジオに図書スペースを設置し、関連する学問領域に関する図書・学術雑誌（Designing, The Design Journal, Co-Design, She Ji, Design & Culture, Design Issues 等）を整備予定である。同スペースには、将来的には UTokyo College of Design の卒業生関連の書籍等を置くなど、UTokyo College of Design の歴史を蓄積・継承する場としても機能させる。

さらに、附属図書館では、国立情報学研究所（NII）NACSIS-ILL 経由による文献利用の申込（複写・貸借）のほか、公共図書館や海外の学術機関等への資料取り寄せサービスを受け付けている図書館も多く、他機関の図書館等との協力体制を構築している。特に、米国ハーバード大学図書館とは相互の訪問利用を特段の手続きなく行える体制を構築しており、また韓国国立中央図書館とはデジタル化済み資料の閲覧・複写を可能にするなど、様々なサービスを提供することで本学構成員の幅広い学習・研究活動を支援している。

1 1 管理運営

(1) 管理運営体制

UTokyo College of Design では、教授会の審議事項の精選及び運営会議等における審議事項の明確化を通じて、学部長を中心とした機動的な意思決定を可能とし、教員の教育研究時間確保に努める。

① 学部長

東京大学基本組織規則第 25 条に基づき学部長を置く。学部長は、学部に関する校務をつかさどり、学部の教授会を主宰し、所属教職員を統督する。

② 教授会

東京大学基本組織規則第 24 条に基づき教授会を置く。

価値創造学部の教授会は、以下に関する事項について審議し、学部長に対して意見を述べる。

- (1) 学生の入学及び卒業に関する事項
- (2) 学位の授与に関する事項
- (3) 学部の教育研究に関する基本組織、教育課程の編成及び教員の選考に関する事項
- (4) 組織運営に関わる規則の制定・改廃等に関する事項のうち、学部長が必要と認める事項
- (5) その他、学部長が必要と認める事項

上記以外の教育研究・組織運営に関する重要事項の審議については、学部長のリーダーシップの元で機動的な意思決定を可能とするため、原則として後述の運営会議及び教育会議において審議する。教授会は、上記の審議及び報告・情報共有の場として定期的を開催する。学部長の選考においては、教授会の議を経たのちに、総長が任命する。

価値創造学部の教授会は、本学部専ら従事する教授、准教授及び講師、その他、本学の教授のうち、学部長が特に必要と認めた者で構成される。

③ 運営会議

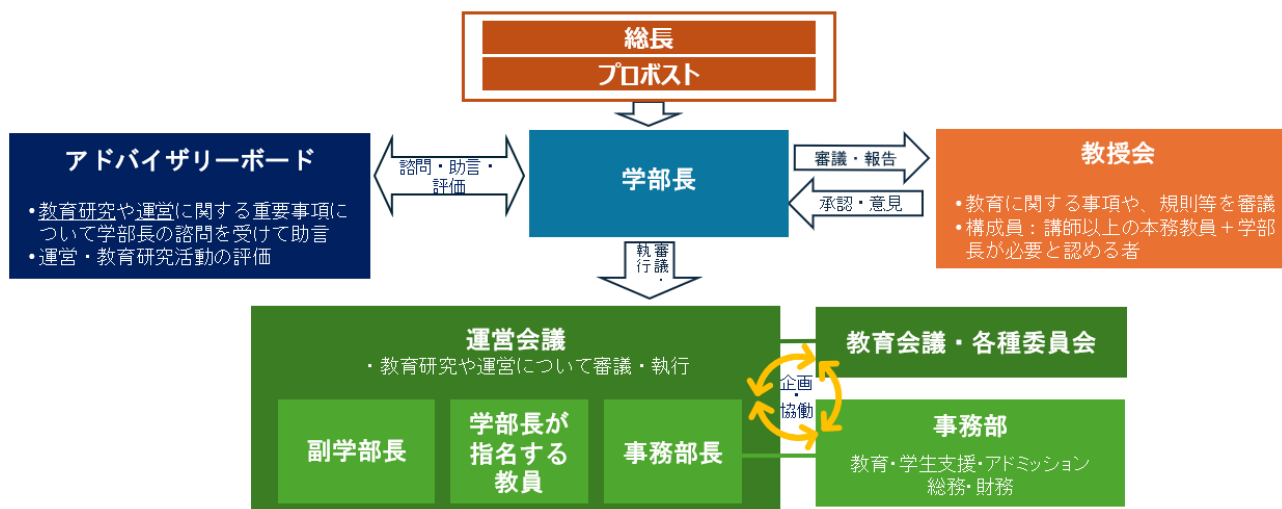
学部長は、東京大学価値創造学部組織運営規則第 7 条に基づき運営会議を開催する。

運営会議は、教授会及び教育会議の審議事項を除き、学部の管理運営及びその他の重要事項について審議し、学部長に意見を述べる。

運営会議は、学部長、副学部長、学部長から指名された教員若干名、事務部門の長（一部の事項の審議及び議決には加わらない）で構成される。

④ 教育会議

教育会議を設置し、教育・学生支援に関する事項について具体的な検討・審議を行う。教育会議は、学部長が主宰し、副学部長、学部長から指名された教員若干名により構成され、定期的を開催する。



（２）リスクガバナンス体制

UTokyo College of Design では、多様な背景を有する構成員、初年次全寮制、企業等との連携による教育、長期インターンシップ等の特性を踏まえた固有のリスクに対し適切に対応するため、全学的なリスクガバナンス方針のもと、自律的かつ責任あるリスク管理を行う。

① リスクガバナンス体制の整備

学部長の下にリスク・コンプライアンス委員会を設置し、組織的かつ統括的な管理体制を整備する。

教職員に対しては、東京大学教職員倫理規程に基づくセルフチェックの確認申告及び定期的な研修受講を義務付け、コンプライアンス意識の徹底を図る。また、公的研究費等については、適正管理及び不正使用防止計画を策定するとともに、モニタリング体制を整備・運用することにより、規程に基づく適切な管理を徹底する。

なお、教育研究環境においては、閉鎖性を排し、相互の可視性及び適切な距離を確保することにより、不適切行為の未然抑止を図る。

② 固有リスクへの対応

UTokyo College of Design の特性に応じた固有のリスクへの対応として、次の措置を講じる。

初年次全寮制に関しては、多様な背景を持つ学生が安心して交流できる安全な居住環境の確保に向け、各種規範及びルールを整備するとともに、入寮時研修や継続的な生活指導・安全教育の実施を通じて規範遵守を徹底する。加えて担当教職員及びレジデント・アシスタント（RA）を配置し、日常的な支援体制を整備する。

社会と連携した教育の実施に当たっては、教職員向けガイドラインの策定及び研修の実施、並びに機密保持契約（NDA）等の締結を通じて企業等との適切な関係性を構築し、利益相反を適切に管理するとともにコンプライアンス違反の防止を図る。

インターンシップ等の学外活動においては、派遣先（国内外）の情勢把握、安全管理講習の実施、保険加入の徹底、及び受入先と連携した緊急時連絡体制の構築により、危機管理を徹底する（33 頁参照）。

③ 構成員の多様性を前提としたリスクガバナンス文化の醸成

構成員の多様性を前提としたリスクガバナンス文化の醸成を図るため、ファカルティ・ディベロップメント及びスタッフ・ディベロップメントを通じてコンプライアンス意識の向上を図るとともに、組織全体として継続的な意識改革を推進する。また、アカデミック・メンター及び学生支援相談員が連携し、日常的な学生との接点を通じて潜在的なリスクの早期発見に努めるなど、未然防止型のリスクマネジメントを実施する（50 頁参照）。

12 自己点検・評価

(1) 本学における自己点検・評価の基本的な考え方

本学は、学校教育法第109条の規定に基づく大学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況についての自己点検及び評価（以下、「自己点検・評価」という。）について基本的な考え方を示すため、大学全体並びに学部、大学院組織、附置研究所における自己点検・評価の実施にあたっての大綱的指針として「東京大学における自己点検・評価の基本方針」（以下、「基本方針」という。）を策定している。基本方針では、本学が掲げる理念や目標に照らして、教育、学術研究、社会連携、国際化等の諸活動（以下「教育研究活動等」という。）の現状や課題、今後の対応の在り方を把握・確認することにより、教育研究活動等の活性化及び水準の維持・向上に向けた自主的・自律的な取組を促進することとしている。

各部局は、この基本方針に沿って、東京大学憲章を基礎としつつ、各部局が掲げた教育研究活動等の理念や目標に基づき、それぞれの学問領域や学術の動向及び社会的要請等を踏まえ、自己点検・評価を行い、原則として6年以内ごとにとりまとめることとしている。評価結果は、教育研究活動等の活性化及び水準の維持・向上に役立てるとともに、教育研究活動等の理念や目標及び3つの方針の見直し等に適宜反映させるほか、把握した課題への対応の方針及び計画を明らかにし、その進捗を管理することとしている。特に教育活動については、教育の質保証の観点から、「教育に関する内部質保証の実施要項」（以下、「実施要項」）を定め、教育研究活動等の質及び学生の学修成果の水準の確保を図ることとしている。

また、本学の将来構想及び国立大学法人法に基づく中期目標・中期計画などの達成状況を十全に点検・評価するため、各部局における評価結果の総括等を踏まえた大学全体の自己点検・評価として、各理事及び副学長の責任のもと、関係する室、委員会及び本部事務組織において、その任務及び所掌に応じた現状や課題、今後の対応の在り方を把握・確認することとしている。

なお、教育研究活動等の状況に関する点検評価の実施、点検評価結果の取りまとめ及び公表、点検評価結果に基づく改善方策並びにこれらに関連する事項について協議を行う全学的な体制として、東京大学評価委員会を設置している。評価結果は、個人情報など公表に相応しくない箇所を除き、原則としてウェブサイト等を通じて公表している。

〈本学 HP「自己点検・評価等」〉 <https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/quality-assurance/self-assessment.html>

(2) UTokyo College of Design における自己点検・評価

UTokyo College of Design では、上述の基本方針及び実施要項に則り、自己点検・評価を所掌する評価担当を設置し、独自の自己点検・評価に係る申合せを策定の上、自己点検・評価を組織的に実施する。

あわせて、教育研究上の目的を達成するための計画に関する重要事項及び教育研究活動等の評価に関する重要事項等について学部長の諮問を受けて、学部長に対して助言を行うアドバイザリーボードを設置する。

UTokyo College of Design の自己点検・評価にあたっては、アドバイザリーボードによる意見や外部評価結果のみならず、インターンシップ実習先等へのアンケート、卒業生への追跡調査、卒業生の就職先等からの聞き取り調査の実施により外部の声を収集し、教育研究及び管理運営の質の向上に活用する。

卒業生への追跡調査にあたっては、学生の自己評価に基づく調査に加え、履修や成績の状況、Change Maker Design Projects や長期インターンシップ等を通じた学びの蓄積としてのポートフォリオ、Capstone Design Project による成果発表・展示等の直接的な学修成果を用いながら、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力の達成状況を多角的に検証する。

そのほか、学生や教員相互による授業評価を実施するとともに、蓄積された学生のポートフォリオを活用して分析・可視化するラーニングアナリティクス（教育効果検証）の導入により、自律的な教育改善サイクルを確立し、内部質保証を徹底する。

自己点検・評価の結果は、個人情報など公表に相応しくない箇所を除き、原則としてウェブサイト等を通じて公表する。

13 情報の公表

本学は、教育研究機関として社会に対する責任説明を果たすとともに、教育研究の質を向上させる観点から、大学ウェブサイトにおいて、大学の教育研究の理念や基本方針、中期目標・中期計画などの大学が目指している方向性を発信するとともに、カリキュラム、シラバス、定員、学生数、教員数などの基本情報や、教育・研究・社会貢献等の大学運営の状況を公表している。具体的な公表事項は以下のとおり。

〈本学 HP「教育情報の公表」〉

<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/edu-data/index.html>

- ア 大学の教育研究上の目的及び3つのポリシー（学位授与方針、教育課程の編成・実施方針、入学者受入方針）に関すること
（各学部・大学院の教育研究上の目的及び3つのポリシー）
- イ 教育研究上の基本組織に関すること
（学部・学科名、研究科・専攻名、附置研究所・研究部門名、学内共同教育研究施設、国際高等研究所、学際融合研究施設、全国共同利用施設、連携研究機構）
- ウ 教育研究実施組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
（教員検索、教員数、教員の年齢構成）
- エ 入学者の選抜に関すること
（入学者選抜方法等の概要）
※ https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/admissions/adm-data/e01_02.html
- オ 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況並びに外国人留学生の数に関すること
（入学者受入方針、入学者数、志願者数・合格者数、収容定員、在学者数、編入学者、学士入学者の状況、外国人学生・留学生数、卒業生数、進学者及び就職者並びに状況等、大学院の修了状況）
- カ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること
（各教員が担当する授業科目、授業科目ごとの授業の方法及び内容、年間の授業計画）
- キ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
（東京大学学部通則、各学部規則、各研究科規則）
- ク 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
（キャンパス情報、講堂・会館・集会・施設、スポーツ施設、サークル・運動部の活動）
- ケ 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
（東京大学検定料、入学料及び授業料等の費用に関する規則）
- コ 大学が行う学生の学修、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
（キャリア・サポート室、学生支援センター、学生相談所、なんでも相談コーナー、ハラスメント相談所、保健・健康推進本部、バリアフリー推進オフィス）

サ 大学院設置基準第 14 条の 2 第 2 項に規定する学位論文に係る評価に当たっての基準
(大学院ごとの学位論文評価基準)

なお、学校教育法第 83 条の 2 第 2 項、第 99 条第 3 項及び第 108 条第 5 項による専門性が求められる職業に就いている者、当該職業に関連する事業を行う者その他の関係者との協力の状況については、各専門職大学院にて公表している。

その他の公表情報

東京大学憲章

<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/overview/b04.html>

中期目標・中期計画

<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/overview/b05.html>

東京大学規則集

https://www.u-tokyo.ac.jp/gen01/reiki_int/kisoku_mokuji_j.html

学部・大学院等の設置について

https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/public-info/b05_estpl.html

自己点検・評価等

<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/quality-assurance/self-assessment.html>

1 4 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

(1) 大学全体のファカルティ・ディベロップメント

本学は、「東京大学のファカルティ・ディベロップメント (FD) の基本方針」を定め、FD を「教員組織の責任の下、教職員等が、東京大学憲章等の理念・目標の実現のため、卓越した学習環境・学習機会の創造を目指す組織的・継続的な取組」と位置付け、構成員個人及び組織の能力を育成・開発するための取組を総合的に推進している。

本学では、教員の所属組織は、FD に関する適切な実施体制を整えた上で、教員等に対し、FD の機会を自ら提供するとともに、能力開発のための自主的な活動の奨励・支援を行うこととしている。

また、学内共同教育研究施設である大学総合教育研究センターは、本学における教育研究の質向上を支援するという設置の目的を踏まえ、FD の実施主体への援助など、FD の全学的な推進に向けた環境整備に努めることとしている。同センターは、その活動の一環として、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修を実施しており、若手教職員や大学教員を目指す大学院生を対象とした「東京大学フューチャーファカルティプログラム (東大 FFP)」を 1 年間に 4 回開講し、教育能力の向上を図っている。

近年では国内外の大学で教壇に立つのに必要な教育力を育成するために、国際的な視野で設計された英語版 FD プログラム「The University of Tokyo Global Future Faculty Development Program (UTokyo Global FFDP)」(年 1 回)、並びに「UTokyo FD Open」(年 9 回)を提供しており、多様なバックグラウンドを有する若手教員等が参加している。教養学部には、英語等で授業を行う教員の教授法卓越化を促進することを目的として、Global Faculty Development Initiative を置き、キャンパス内の複数の関連プログラムを相乗的に連携させて、大学全体の教育体験の質の向上を図っている。

指導補助者に関しては、本学は「指導補助者に関する申合せ」を定め、大学院学生のティーチングアシスタント (TA) を指導補助者と定義し、授業科目の開設部局は各授業科目について、指導補助者に補助させることができることとしている。指導補助者に対しては、大学本部及び授業科目開設部局が必要な研修を行うものとしており、大学本部としては、TA 委嘱前に研修の受講を義務づけ、TA 業務を行う上での心構えや、個人情報等の取扱い等の留意事項を学ばせるとともに、動画視聴及び確認テストの受講をもって、受講完了としている。

〈東京大学におけるファカルティ・ディベロップメント〉

<https://utokyofd.com/>

(2) 大学全体のスタッフ・ディベロップメント

本学は、「東京大学職員の人材育成の推進体制に関する基本方針」²⁵を策定し、東京大学憲章の理念の実現に向け、一人ひとりの職員が担当業務を通じて積極的に寄与・貢献できるよう、その能力を最大限向上させるための組織的な取組に係る推進体制を整備している。その一環として、毎年度、「東京大学職員能力開発 (研修、自己啓発等) 計画」を策定し、階層別・課題別・汎用スキル別・分野別に

²⁵ 本学 HP「東京大学職員の人材育成の推進体制に関する基本方針」

https://www.u-tokyo.ac.jp/gen01/reiki_int/sochosaitai/utss-248.pdf

多種多様な研修を実施している。

全学の教職員を対象とした取組としては、情報セキュリティ教育、全学コンプライアンス・リーガルマネジメント研修、DEI 研修、研究倫理研修、研究費不正使用防止 e ラーニング及び研究インテグリティの確保に関する研修会等を実施している。

（３）UTokyo College of Design における取組

UTokyo College of Design では、多様な背景や学習歴を有する学生を受け入れるとともに、海外大学等で教育・研究に従事してきた教員を含む多様な教員が教育に関わることを踏まえ、学生生活・相談支援から教授法に至るまで、多角的なファカルティ・ディベロップメント（FD）を実施する。

その一環として、UTokyo College of Design では、学生支援において、アカデミック・メンターが学生と日常的に接し、学修状況及び学習上の課題を把握するとともに、アカデミック・アドバイザーを中心とした横断的な連携体制を整備する（別紙 3 参照）。アカデミック・アドバイザーは、教育活動に関する情報及び課題を教員間で共有しつつ、FD の企画・実施を担い、教育理念の理解の徹底と教育の質の向上に資する継続的改善を推進する。

また、上述した本学の FD 関連組織と連携するとともに、国内外の専門的知見を有する講師を招聘し、アクティブラーニングの手法、デザイン教育の方法論並びに多様性及びウェルビーイングに配慮した教育の在り方などに関する理解を共有することにより、教員の教育力向上と教育の質保証を図る。

加えて、各授業科目群に責任教員を配置し、定期的な会合を通じて教育理念及び到達目標の共有を図るとともに、授業内容及び評価方法の検証を行い、授業科目の質保証を行う。

UTokyo College of Design で業務に従事する職員については、日常業務において語学能力が求められることを踏まえ、各職員のスキルや経験に応じて「東京大学職員能力開発（研修、自己啓発等）計画」中の語学研修等の受講を推奨する。

15 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

（１）教育課程内外の取組

UTokyo College of Design では、産業界を含む学外の多様なステークホルダーとの接点を教育課程の随所に組み込むことにより、学生が社会的・職業的自立を図るために必要となる能力を、知識の獲得と実践との往還を通じて身に付けられるようにしている。

具体的には、初年次必修の 8 Track Design Series では、倫理観や多様性への配慮を学び、自身の立場や考え方が判断や行動に与える影響を見直す中で、社会的・職業的責任に対する基礎的な意識を育む。Change Maker Design Projects では、実社会の文脈に根ざした課題や、現代社会あるいは未来社会を想定した正解のない課題に対し、学内外の専門家・実務家等と対話を重ねながら取り組むことを通じて、課題の構想・設定、協働による検討、成果の整理・発信といった力を実践の中で身につけていく。そして、Interdisciplinary Perspectives の 5 つの領域を中心に自らの関心や問題意識に即した学術知を選択的に学び、Change Maker Design Projects との往還を通じて、複数の知を結び付けながら、学生一人ひとりの関心領域やキャリア形成への意識に応じて、自らの課題意識を支える軸となる領域を形成する。また、4 年次必修科目である Off-Campus Experience では、国内外の企業等における長期インターンシップを通じて、学生が実社会との関わりの中で自身の関心や役割を相対化し、社会との関係性を捉え直す機会を提供する。4 年次後期以降の Capstone Design Project では、これまでの学修や学外での経験を統合し、学内外のアドバイザーの助言を受けながら、グループでプロジェクトを企画・実践する。

上記の多様な学修・実践経験に加えて、スタジオでの学びや議論などを通じて社会との多様な接点を恒常的に設け、学生が入学後の早い段階から社会とのつながりを自覚し、自身のキャリアを主体的に構想していくことができる環境を整備する。こうした一連の学修を通じて、学生は実社会と接続した課題解決の経験を重ね、社会的・職業的自立に必要な能力を総合的に獲得していく。

（２）全学的なサポート体制等

本学は、各学部等における就職担当教職員等によるサポート体制に加え、全学組織であるキャリアサポート室を設置し、就職関連イベントの企画運営や情報提供、キャリア相談等の機能を持たせている。外国人留学生に対しては、全学組織であるグローバル教育センター留学生支援室において、日本での就職活動や生活全般に関する相談が可能である。

また、産学協創推進本部は、自ら社会課題を見つけ、不確実性が高く限られたリソースしかない環境の中で課題解決に向かってチャレンジする知識・能力・態度を身につけ、起業に限らず多様な社会課題の解決に貢献する人材の育成を目的とした複数のプログラムを提供している。工学部と連携して開講し全学生を対象とする正課科目「アントレプレナー道場」をはじめ、「本郷テックガレージ」、「ソーシャルテックスタートアップ・アクセラレータープログラム」、「課題解決のための社会起業ワークショップ」、「アジア・アフリカでの起業ワークショップ」など多様な課外プログラムを通じ、学生のアントレプレナーシップや自立的なキャリア意識を涵養している。

そのほか、UTokyo College of Design は前述の多層的な相談支援体制を設け、日常的にキャリア相談を含むアカデミック・アドバイジングやメンタリングを行うほか、ポートフォリオ等に基づく定期的な面談等を実施し、学生の主体的な学びや社会的・職業的自立を組織的に支える。早い段階から

修了後のキャリアを明確にする学生に対しては、バックカスティング的に学びのパス形成を助言し、目標に合った知と経験の蓄積を促す。多様な学びのパスの中で、社会との接続や多様なメンバーとの接触も併せ、一人ひとりが時間をかけて考え、社会で活躍・貢献できるキャリアパス形成を図る。

設置の趣旨等を記載した書類

添付資料 目次

別紙1	3つのポリシーの対応と連続性.....	2
別紙2	UTokyo College of Design における学びと学修支援の全体像	3
別紙3	相談支援体制（スタジオを中核とした学びのサポート）	4
別紙4	UTokyo College of Design 履修モデル例.....	5
別紙5	インターンシップ受入予定企業・機関等一覧.....	12
別紙6	インターンシップの全体構造.....	14
別紙7	College of Design 時間割シミュレーション	15

3つのポリシーの対応と連続性

養成する人材像

- 多様な学術の視点から、既存の社会課題に取り組むとともに、新たな社会課題を発見し、それらに対する解決や新たな価値創造をリードする人材
- 多様な人々と協働し、デザインによって様々な領域の学術知を融合し、変革をもたらす人材

- ◆ UTokyo College of Designにおける「デザイン」の定義：課題を理解し、アイデアを生み出し、効果的な解決策を創出し、変化をもたらす営み
- ◆ UTokyo College of Designの教育は、①デザインの的方法論とスキルの獲得及び実践、②幅広い学術知の獲得、③社会課題解決に向けた社会と連携した実践経験、の3つの柱で構成
これらを組み合わせることで、自ら社会変革を先導すると同時に、他者と協働しながら変革の触媒となる次世代のリーダー(Change Maker)を育成

カリキュラム・ポリシー

【教育課程編成の方針】		授業科目群		配当 年次	修了要件 単位数※	ディプロマ・ポリシー									
① デザインの理論・方法論・技法・倫理とともに、幅広い学術分野の基礎や考え方を養う授業科目を初年次必修として設け、2年次以降の学びの基盤とする。	導入・スキル	ソフト・スキル、アカデミック・インテグリティの涵養		1年次必修	4単位		○		○						
	Interdisciplinary Foundations (IF)	幅広い学術分野の基礎や考え方の修得		1年次必修	18単位	●				○					
	8 Track Design Series	デザインの理論・方法論・技法・倫理の修得		1年次必修	16単位	○		●	○	●					
② 初年次で形成した知識基盤を統合的に活用しつつ、社会課題につながる領域横断的な学術知の獲得に向けた学びと、デザインを実践するプロジェクト型学修を組み合わせた授業科目を編成する。	Interdisciplinary Perspectives (IP)	学びの起点となる領域横断的な学術知の修得		2～5年次選択必修	40単位～	●	■	●	■		○	□			
	Change Maker Design Projects	デザインと学術知の融合による課題解決と価値創造の実践		2～3年次選択必修	28単位～	○		●	■	○	□	○	□		
③ 獲得した知を実社会で実践し、多様性の中で自己を相対化する経験を得るため、長期インターンシップ等の学外での学びを必修科目として設ける。	Off-Campus Experience (internship)	実社会における理論と実践の架橋と自己相対化の経験		4年次必修	12単位		●	■	●	■	●	■	■		
④ 将来を構想する力を育むとともに、創造的思考力や対話・協働の実践力を養うため、先端的・実験的テーマの議論や実社会・異分野との接点を設ける。	Viewpoint Series	学術・技術の最先端の理解とデザインフロンティアの探究		1～5年次選択必修	6単位～		○	□		○	□		●	■	
⑤ 学びの成果の集大成として、自ら計画し実行するキャップストーン・プロジェクトを必修科目として設け、成果を社会に発信する機会を提供する。	Capstone Group Design Project	グループでのデザインプロジェクトの企画・実行		4年次選択必修	8単位		○		●		●		○		□
	Capstone Solo Design Project	学びの成果の集大成と社会への発信		5年次必修	16単位			■		□		□		■	
【教育・学修の方針】						【学修成果の評価の方針】									
● アクティブラーニングやプロジェクト型学修を基本とし、学生自らの学びを広げ知的探求を深める姿勢を培うとともに、理論と実践の往還を重ねることで、知の定着と実践力の涵養を図る。 ● 初年次教育を含む教育課程全体及びスタジオを中心とした準正課活動を通して、ソフトスキルやアカデミックスキル、倫理観、多様性と包摂性を尊重する態度を養う。						● 学修成果の評価は、授業の目標や特性に応じた評価方法・基準を用いて適切に行う。キャップストーン・プロジェクトでは、相互評価等の多面的な評価手法を取り入れ、学生の総合的な能力を評価する。									
						※ 授業科目群ごとの要件単位数を満たしたうえで、IP、Change Maker Design Projects、Viewpoint Series、他学部又はグローバル教育センターの科目のいずれかから、さらに6単位分を修得									

アドミッション・ポリシー

UTokyo College of Designでは、国内外を問わず、多様なバックグラウンドを有した、以下の資質等を持った学生を受け入れる。

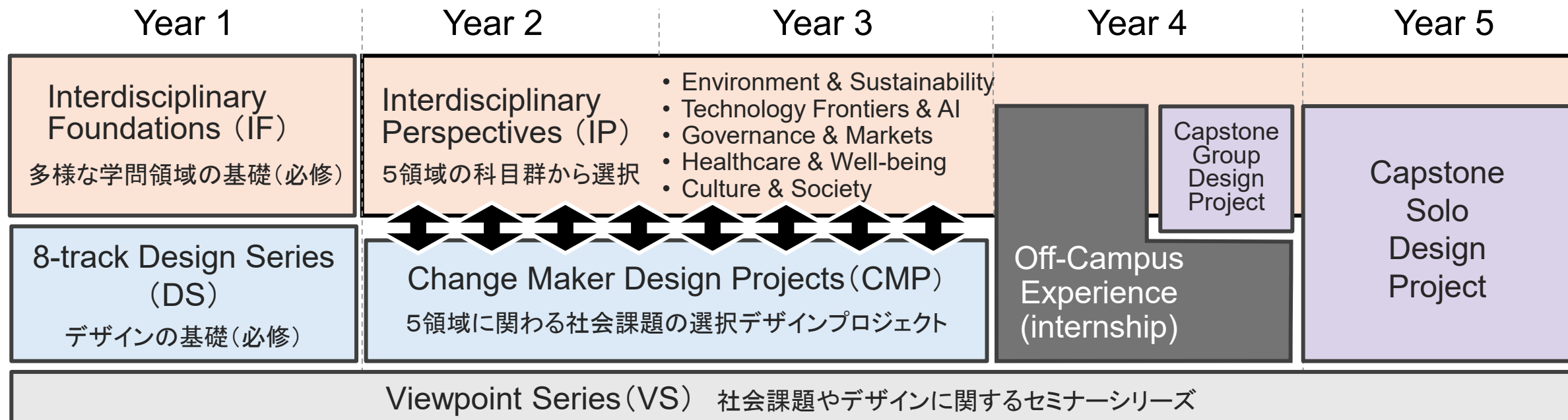
- 知力と学習能力
- 優れたコミュニケーション能力及び英語力
- 論理的思考力及び創造的思考力
- 責任感、社会正義感、包摂性
- 自主性及び協調性

UTokyo College of Designでは包括的かつ公正な入学選抜を行う。選考では、学業成績ならびに、個人の特性、才能、そして特定の環境で培われた経験を考慮することで、学生の将来の可能性を評価する。

—設置の趣旨等（資料）—2—

【凡例】
学士課程相当 ●:主に対応 ○:関連
修士課程相当 ■:主に対応 □:関連

UTokyo College of Designにおける学びと学修支援の全体像



基礎の必修

主体的な学びの応用と展開

社会で学びの統合・総合化

学びの集大成

学
び

- 9学術分野およびデザインの基礎必修
- 2年次以降の基盤形成
- 自主的な学びの拡張

- IP講義群、CMPテーマ群から主体的学びの構築
- IP-CMP往還の中で知の習得・連結・応用・展開
- 8タームの中で軸となる専門領域形成(骨格)
- 自律的・継続的に学びを深める姿勢

- 社会の中で学びの統合・総合化・骨格強化
- 自律的な学びの継続
- 将来キャリアの考察

- 課題設定から構想・統合・実装のプロセスを1人で遂行
- 学びを総合し体現

支
援

- アドバイザー、メンターによる学びの支援
- 基盤教育の教員FD
- スタジオでの学びの定着

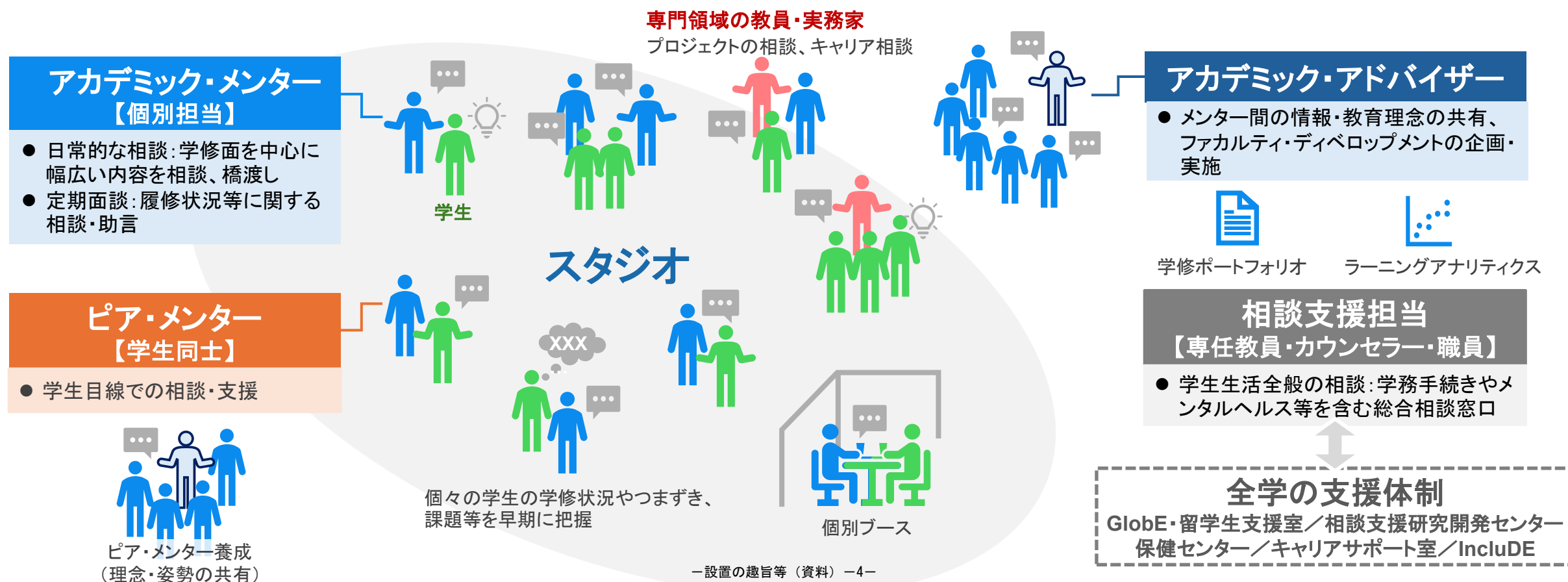
- ターム毎の履修・学修状況の把握、アドバイザー、メンターによる主体的学び・骨格形成の支援
- アクティブ/プロジェクトベース教育の教員FD
- スタジオで内外専門家による知の連結・応用支援

- チームを構成して支援とメンタリング
- 受入先と連携した事前計画とマッチング

- 指導教員、内外専門家による指導と支援

相談支援体制(スタジオを中核とした学びのサポート)

- スタジオを学びの中核に据え、すべての専任教員がアカデミック・メンターとなり、個々の学生の学修プロセスを継続的に見守りながら、日常的にアドバイジングや学修・履修メンタリングを実施
- 学内外の教員・実務家等による、専門的知見や実社会の知見に基づく助言及びキャリア相談の提供
- アカデミック・アドバイザーが学修相談支援を一体的に統括。学修ポートフォリオやラーニングアナリティクスを活用した組織的学修支援を展開



UTokyo College of Design 履修モデル例

注) UTokyo College of Designの学生は、アドバイザーの助言を得つつ、自ら学びのパスを形成し、授業内外を通じて主体的に学ぶ。修了生は、これまでにない職業を含む多様な領域で活躍することが想定される。本資料は、そうした将来像を想定した一例として作成したものである。

Year 1

Year 2

Year 3

Year 4

Year 5

多様な学術・
デザイン基礎の修得

多様な学術の学び、
デザインとの融合・応用

G&M分野のIPを中心に、
E&S分野、H&W分野の学
びも関連付けながら、CMP
ではGovernance, Equity,
Health等のテーマを選択

行政、国際機関、NPO等
でのインターンシップ

多様な利害関係者を調整
しながら、政策・制度・社会
システムの課題を発見し、
再設計するプロジェクトを
遂行

行政・国際機関・NPO等で
社会システムの変革や
様々な枠組みの再設計に
関わる人材

多様な学術・
デザイン基礎の修得

多様な学術の学び、
デザインとの融合・応用

E&S分野のIPを中心に、
G&M分野、C&S分野等の
学びを関連付けながら、
CMPでは Education,
Entertainment, Technology
等のテーマを選択

企業における技術開発部
門、マーケティング部門等
でのインターンシップ

技術・市場・利用者・社会
的影響を統合的に捉え、
実装可能なサービスや事
業を構想・推進するプロ
ジェクトを遂行

企業内で新たなビジネス
や製品・サービスを創出す
る人材

多様な学術・
デザイン基礎の修得

多様な学術の学び、
デザインとの融合・応用

C&S分野、TF&AI分野、
H&W分野等のいずれかの
IPを中心に、CMPIにおい
ても隣接するテーマを選択

企業における研究所等
でのインターンシップ

実践から得られた知見を
一般化・理論化し、Design
の方法論、評価軸又はプロ
セス設計として発信する
プロジェクトを遂行

研究機関・大学で新たな価
値や方法論の創出に取り
組む人材

多様な学術・
デザイン基礎の修得

多様な学術の学び、
デザインとの融合・応用

E&S分野、TF&AI分野、
H&W分野、G&M分野等の
複数領域のIPと、関連する
CMPを横断的に選択

スタートアップにおける企
業内新規事業部門等での
インターンシップ

既存の市場、制度、職業
分類では捉えにくい社会
課題や新たな可能性を発
見し、課題設定から構想・
検証・実装までを一本化す
るプロジェクトを遂行

起業を通じて未踏の社会
課題に挑む人材

本資料はあくまでイメージであり、学生の学びのパスや進路を規定したり推奨するものではありません。

UTokyo College of Design 履修モデル例 ⑤

注) UTokyo College of Designの学生は、アドバイザーの助言を得つつ、自ら学びのパスを形成し、授業内外を通じて主体的に学ぶ。修了生は、これまでにない職業を含む多様な領域で活躍することが想定される。本資料は、そうした将来像を想定した一例として作成したものである。

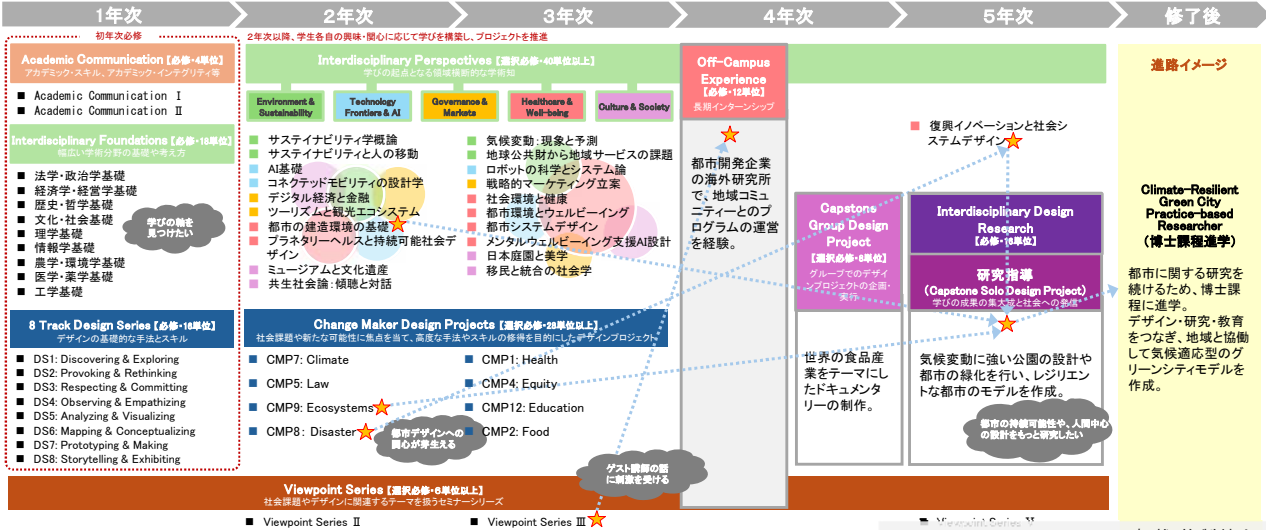
Narrative

学際的な知識と地域社会の視点を融合させ、気候変動への適応に向けた自然を活かした戦略を構築したい。
Capstone Design Projectでは、気候変動に強い公園の設計や街の緑化を行い、レジリエントな都市のモデルを設計する。

★ターニングポイント

・自身の興味・関心に従って、幅広いジャンルのIP科目とCMP科目を履修する。
・CMP「Ecosystems」、CMP「Disaster」での学びから、都市デザインに興味を持ち始める。

・VSで都市設計の専門家による講義に刺激を受け、都市デザインへの関心をさらに高める。
・Capstoneで得た学びを深めるため、博士課程への進学を決める。



© UTokyo College of Design 転載・複製禁止

UTokyo College of Design 履修モデル例 ⑥

注) UTokyo College of Designの学生は、アドバイザーの助言を得つつ、自ら学びのパスを形成し、授業内外を通じて主体的に学ぶ。修了生は、これまでにない職業を含む多様な領域で活躍することが想定される。本資料は、そうした将来像を想定した一例として作成したものである。

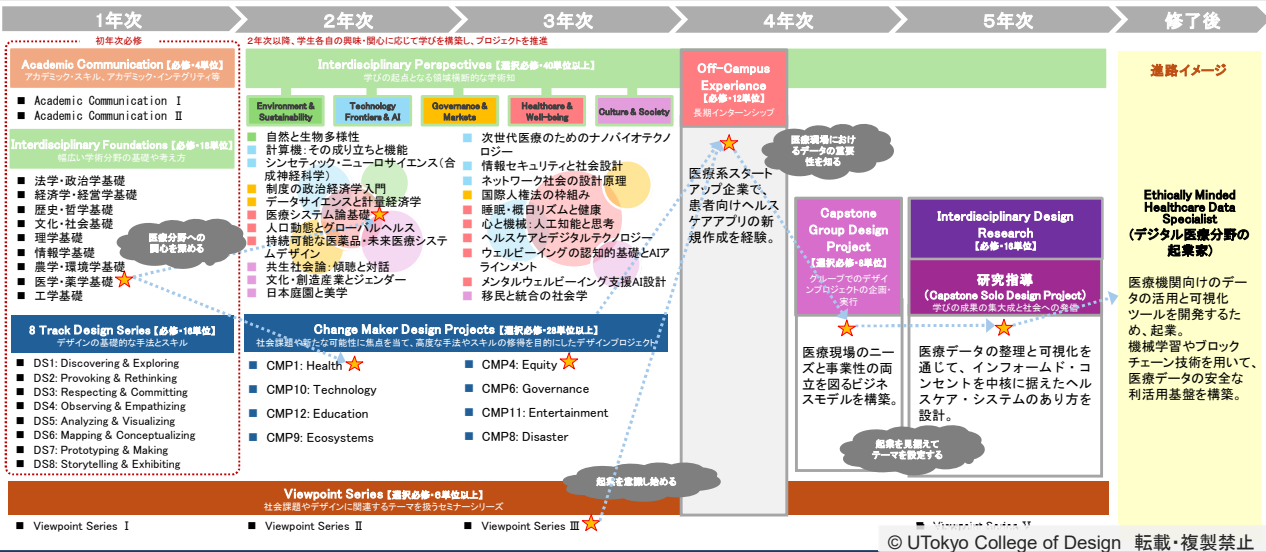
Narrative

医療現場におけるデータの活用と、患者の意思決定を支援する医療システムを構築するため、起業を目指す。
Capstone Design Projectでは、医療データの整理と可視化を行い、患者に寄り添った医療システムの設計に取り組む。

★ターニングポイント

・IP「医療システム論基礎」やCMP「Health」を通して、医療分野への関心を深める。
・VSでのスタートアップ企業創業者の講演を機に、起業の可能性を考える。

・インターンシップでの経験から、データの示し方が患者の意思決定に大きな影響を与えていることに気づく。
・起業を見据えて、Capstoneのテーマを設定しプロジェクトに取り組む。

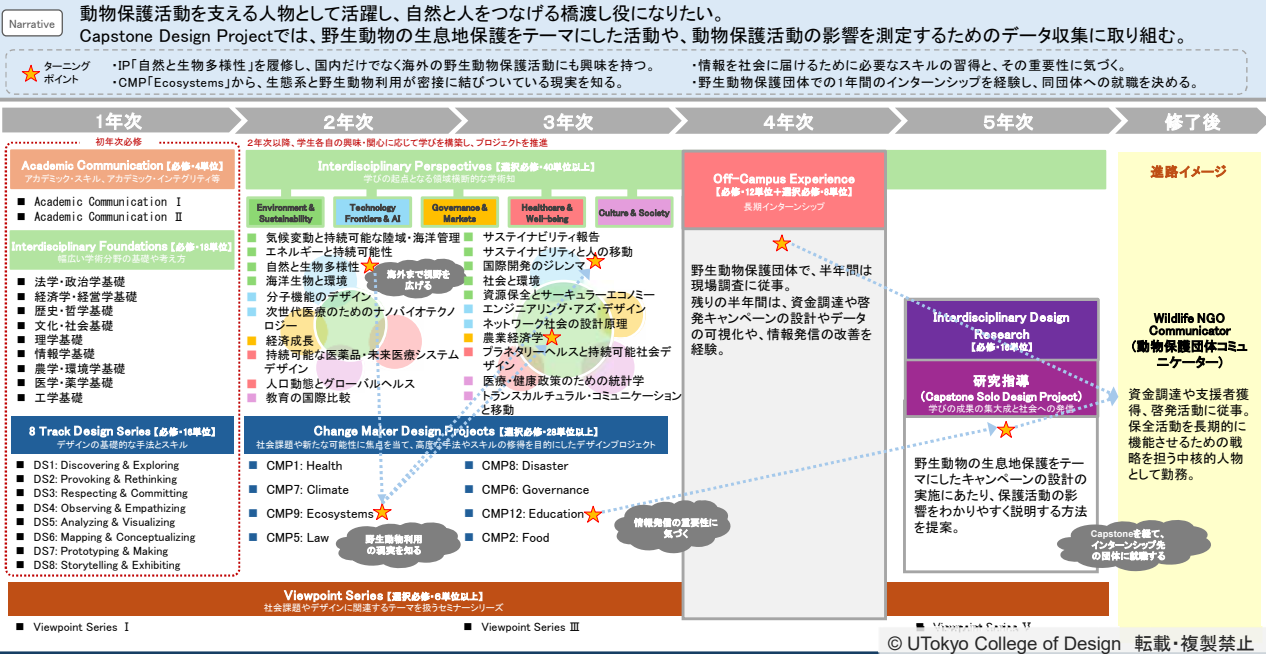


© UTokyo College of Design 転載・複製禁止

本資料はあくまでイメージであり、学生の学びのパスや進路を規定したり推奨するものではありません。

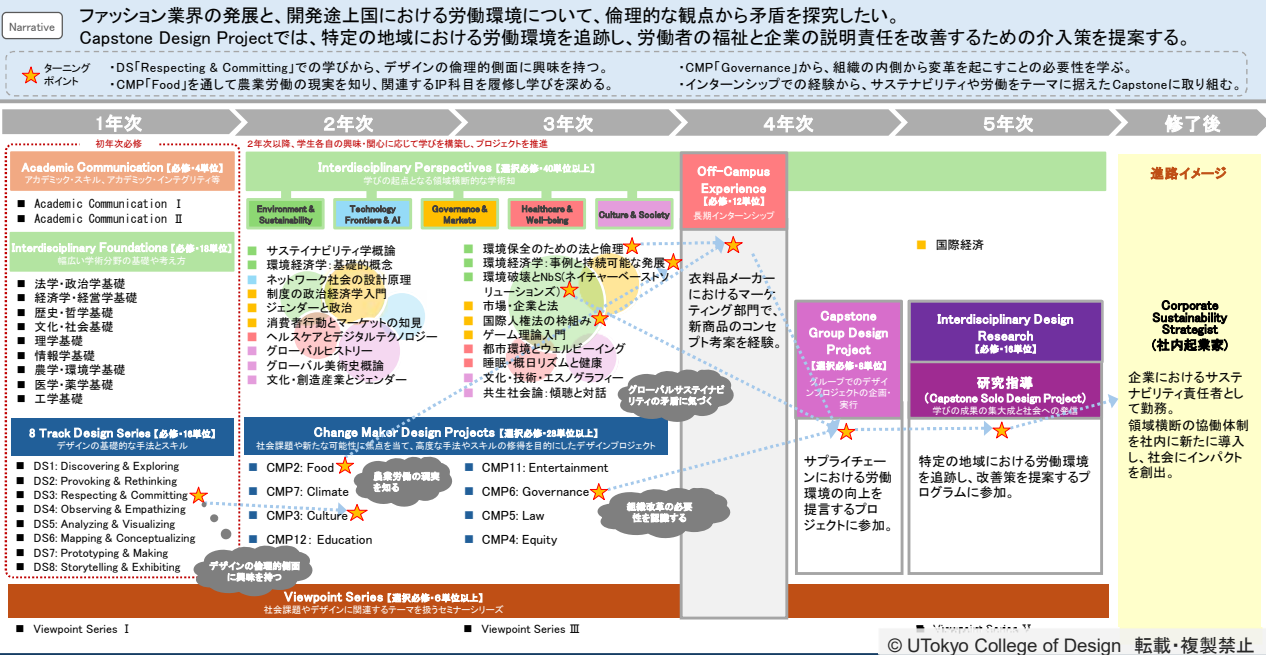
UTokyo College of Design 履修モデル例 ③

注) UTokyo College of Designの学生は、アドバイザーの助言を得つつ、自ら学びのパスを形成し、授業内外を通じて主体的に学ぶ。修了生は、これまでにない職業を含む多様な領域で活躍することが想定される。本資料は、そうした将来像を想定した一例として作成したものである。



UTokyo College of Design 履修モデル例 ④

注) UTokyo College of Designの学生は、アドバイザーの助言を得つつ、自ら学びのパスを形成し、授業内外を通じて主体的に学ぶ。修了生は、これまでにない職業を含む多様な領域で活躍することが想定される。本資料は、そうした将来像を想定した一例として作成したものである。



本資料はあくまでイメージであり、学生の学びのパスや進路を規定したり推奨するものではありません。

UTokyo College of Design 履修モデル例 ①

注) UTokyo College of Designの学生は、アドバイザーの助言を得つつ、自ら学びのパスを形成し、授業内外を通じて主体的に学ぶ。修了生は、これまでにない職業を含む多様な領域で活躍することが想定される。本資料は、そうした将来像を想定した一例として作成したものである。

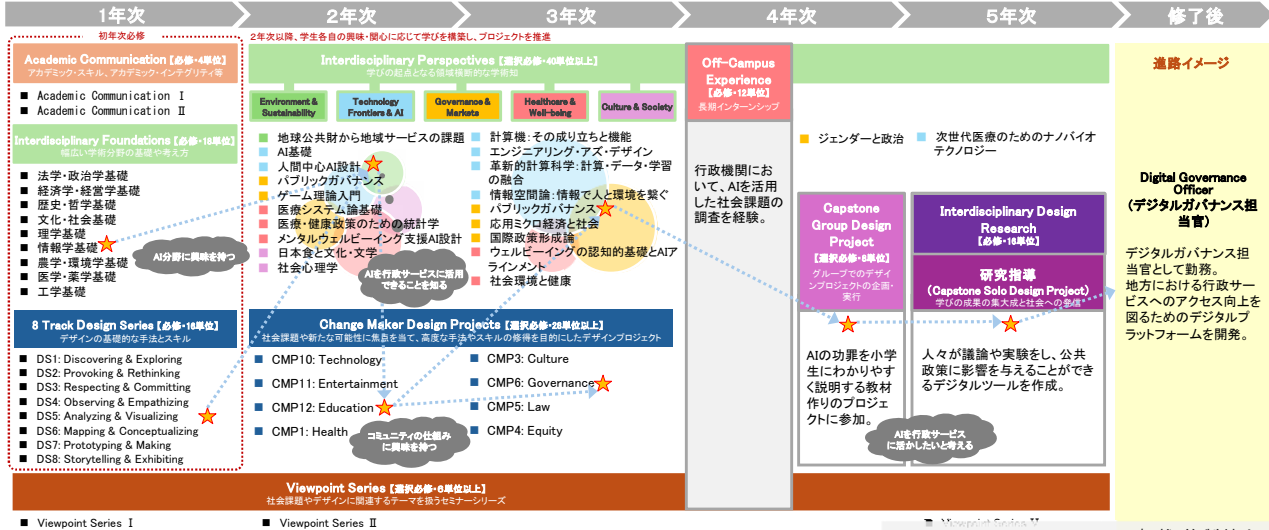
Narrative

政策議論をより魅力的で包括的なものにする、AIを活用したゲームプラットフォームを構築したい。
Capstone Design Projectでは、人々が議論や実験をし、公共政策に影響を与えることができるデジタルツールの開発に取り組む。

★ターニングポイント

・IF「情報学基礎」、DS「Analyzing & Visualizing」での学びからAIデザインへの関心が高まる。
・IP「人間中心AI設計」を通じ、AIを行政サービスに活用できることを学ぶ。

・CMP「Education」を通してツールの実社会への応用に興味を持ち、関連する科目の履修を進める。
・Capstoneでは、AIを行政サービスに活かすためのプロジェクトに取り組む。



© UTokyo College of Design 転載・複製禁止

UTokyo College of Design 履修モデル例 ②

注) UTokyo College of Designの学生は、アドバイザーの助言を得つつ、自ら学びのパスを形成し、授業内外を通じて主体的に学ぶ。修了生は、これまでにない職業を含む多様な領域で活躍することが想定される。本資料は、そうした将来像を想定した一例として作成したものである。

Narrative

国家間紛争や難民・貧困問題等、国境を越えた社会課題を組織改革の側面から解決したい。
Capstone Design Projectでは、国際問題における政策・交渉・資源配分を統合した政策パッケージを提案する。

★ターニングポイント

・複数のIP科目から社会課題と国家権力の関係性を学び、政策判断や交渉に興味を持つ。
・デザイン科目の学びの中で、情報空間やテクノロジーが政治に与える影響にも関心を持つ。

・インターンシップでの経験を通じて、メディアが持つ影響力を再確認する。
・Capstoneを進める中で、学生自身の「デザイン」の捉え方が変化する。



© UTokyo College of Design 転載・複製禁止

インターンシップ受入予定企業・機関等一覧

【別紙5】

2026年7月31日時点

No.	名称	本社等所在地
1	AB Capital Investment	東京都千代田区有楽町1-1-2 日比谷三井タワー12階
2	アクセンチュア株式会社	東京都港区赤坂1-8-1 赤坂インターシティAIR
3	アデコ株式会社	東京都千代田区霞が関3-7-1
4	株式会社aiESG	福岡県福岡市博多区博多駅前1-15-20 NMF 博多駅前ビル2階
5	全日本空輸株式会社	東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター
6	アンカー・ジャパン株式会社	東京都港区赤坂2-17-22赤坂トラストタワー8階
7	アステラス製薬株式会社	東京都中央区日本橋本町2-5-1
8	アトラスコプロ株式会社	東京都港区芝公園1-1-1 住友不動産御成門タワー8階
9	ブラザー工業株式会社	愛知県名古屋市中区瑞穂区河岸1-1-1
10	CIC Japan Innovation Services合同会社	東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門ヒルズビジネスタワー15階
11	株式会社サイバーエージェント	東京都渋谷区宇田川町40-1 Abema Towers
12	株式会社第一ライフグループ	東京都江東区豊洲3-2-3豊洲キュービックガーデン
13	ダイキン工業株式会社	大阪市北区梅田1-13-1 大阪梅田ツインタワーズ・サウス
14	大和証券株式会社	東京都千代田区丸の内1-9-1
15	デル・テクノロジー株式会社	東京都千代田区大手町1-2-1 Otemachi One タワー
16	合同会社デロイト トーマツ	東京都千代田区丸の内3-2-3 丸の内二重橋ビルディング
17	株式会社ディー・エヌ・エー	東京都渋谷区渋谷2-24-12 渋谷スクランブルスクエア
18	株式会社デンソー	東京都港区新橋4-3-1 新虎安田ビル
19	株式会社電通	東京都港区東新橋1-8-1
20	東日本旅客鉄道株式会社	東京都渋谷区代々木2-2-2
21	株式会社Encounter Japan	兵庫県神戸市東灘区岡本4-11-19
22	イー・アール・エム日本株式会社	神奈川県横浜市西区みなとみらい2-2-1
23	EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社	東京都千代田区有楽町1-1-2 日比谷三井タワー
24	FPTジャパンホールディングス株式会社	東京都港区三田3-5-19 住友不動産東京田ガーデンタワー33階
25	富士通株式会社	川崎市中原区上小田中4-1-1
26	G3 Good Governance Group	東京都千代田区大手町1-7-2 東京産経ビル27階
27	ゲンスラー・アンド・アソシエイツ・インターナショナル・リミテッド	東京都港区南青山2-11-16METLIFE青山ビル2F
28	GR Japan 株式会社	東京都千代田区永田町2-9-6 十全ビル101
29	HENNGE株式会社	東京都渋谷区南平台町16-28 Daiwa渋谷スクエア
30	株式会社日立製作所	東京都千代田区丸の内1-6-6
31	Infosys Limited	東京都千代田区大手町2-2-1 新大手ビル5階
32	いすゞ自動車株式会社	神奈川県横浜市西区高島1-2-5
33	株式会社イトーキ	東京都中央区日本橋2-5-1 日本橋高島屋三井ビルディング
34	独立行政法人 国際協力機構	東京都千代田区二番町2-5-25 二番町センタービル
35	川崎汽船株式会社	東京都千代田区内幸町2-1-1
36	キリンホールディングス株式会社	東京都中野区中野4-10-2
37	コクヨ株式会社	東京都港区港南1-8-35 コクヨ品川オフィス
38	株式会社構造計画研究所ホールディングス	東京都中野区本町4-38-13 日本ホルスタイン会館内
39	株式会社KPMG FAS	東京都千代田区大手町1-9-5 大手町ファイナンシャルシティノースタワー
40	株式会社クボタ	東京都文京区弥生1-1-1 東京大学弥生キャンパスフードサイエンス棟304号室
41	株式会社Looop	東京都台東区上野3-24-6 上野フロンティアタワー(受付17階)
42	LINEヤフー株式会社	東京都千代田区紀尾井町1-3 東京ガーデンテラス紀尾井町 紀尾井タワー
43	Mae Fah Luang Foundation under Royal Patronage	1875/1 Rama IV Road, Lumpini, Pathumwan, Bangkok, Thailand, 10330
44	MakinaRocks株式会社	東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門ヒルズビジネスタワー15階
45	丸紅株式会社	東京都千代田区大手町1-4-2
46	株式会社メルカリ	東京都港区六本木6-10-1六本木ヒルズ森タワー
47	三菱電機株式会社	神奈川県鎌倉市大船5-1-1
48	三菱マテリアル株式会社	東京都千代田区丸の内3-2-3
49	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社	東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー
50	三井不動産株式会社	東京都中央区日本橋室町3-2-1
51	MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株式会社	東京都中央区新川2-27-2
52	NPO法人結び手	東京都港区南青山2丁目2番15号WIN青山531
53	ナノテックシュビンドラー株式会社	千葉県柏市柏インター南4-6
54	日本電気株式会社	東京都港区芝 5-7-1
55	NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社	東京都千代田区神田和泉町2番地
56	野村不動産ホールディングス株式会社	東京都港区芝浦1-1-1
57	野村證券株式会社	東京都中央区日本橋1-13-1
58	オーシャン貿易株式会社	京都市中京区堂之前町254 WEST18 4階
59	株式会社オカムラ	東京都千代田区紀尾井町4-1 ニューオータニガーデンコート
60	株式会社オープンアップグループ	東京都港区虎ノ門1-3-1 東京虎ノ門グローバルスクエア16F
61	株式会社オープンアップシステム	東京都港区東新橋2-14-1 NBFコモディオ汐留3F
62	株式会社オブティマインド	愛知県名古屋市中区栄2-11-30 セントラルビル9階
63	OptQC株式会社	東京都豊島区西池袋1-21-7 住友不動産池袋西口ビル10階
64	パナソニック コネクト株式会社	東京都中央区銀座8-21-1汐留濱離宮ビル
65	PTCジャパン株式会社	東京都新宿区西新宿6-8-1 新宿オークタワー
66	PwC Japan有限責任監査法人	東京都千代田区大手町 1-1-1 大手町パークビルディング
67	ルネサス エレクトロニクス株式会社	東京都江東区豊洲3-2-24 豊洲フォレシア
68	レンゴー株式会社	大阪市北区中之島2-2-7
69	株式会社サンリオ	東京都品川区大崎1-11-1
70	SCSK株式会社	東京都江東区豊洲3-2-20
71	塩野義製薬株式会社	大阪市北区大深町5番54号グラングリーン大阪南館パークタワー

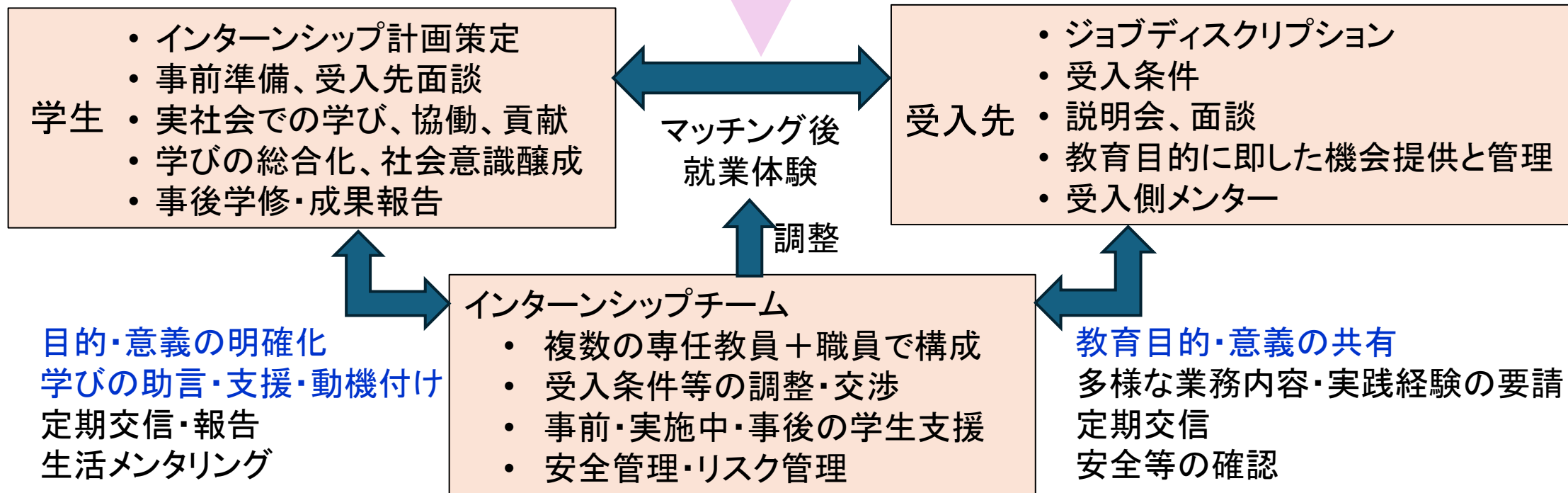
72	ソニーグループ株式会社	東京都港区港南1丁目7番1号
73	住友商事株式会社	東京都千代田区大手町2-3-2 大手町プレイスイーストタワー
74	住友重機械工業株式会社	東京都品川区大崎2-1-1
75	住友生命保険相互会社	東京都中央区八重洲2-2-1 東京ミッドタウン八重洲
76	株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1-1-2
77	サントリーホールディングス株式会社	東京都港区台場2-3-3
78	大成建設株式会社	東京都新宿区西新宿1-25-1
79	チームラボ株式会社	東京都千代田区神田小川町2-12
80	The European Business Council in Japan	東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門ヒルズビジネスタワー15階
81	P&Gジャパン合同会社	神戸市中央区小野柄通7-1-18 三宮ビル北館7階
82	The World Economic Forum	東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー49階
83	株式会社TOKI	東京都渋谷区恵比寿西1-33-6 JProie恵比寿西1F
84	東京海上ディール株式会社	東京都千代田区大手町1-5-1 大手町ファーストスクエア ウェストタワー23階
85	TOPPANホールディングス株式会社	東京都文京区水道1-3-3
86	Uzabase Inc	東京都千代田区丸の内2-5-2 三菱ビル
87	株式会社Wildlife Ventures	東京都新宿区市谷田町2-17 八重洲谷ビル10F
88	WOTA株式会社	東京都中央区日本橋馬喰町1-13-13
89	ウーブン・バイ・トヨタ株式会社	東京都中央区日本橋室町3-2-1
90	株式会社ゼンショーホールディングス	東京都港区港南2-18-1 JR品川イーストビル

インターンシップの全体構造

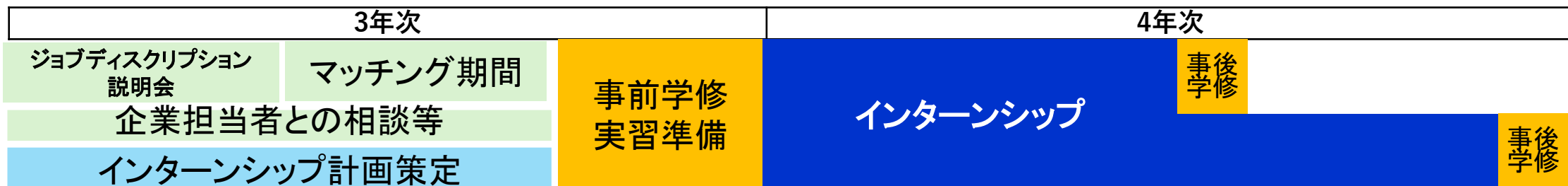
マッチング

- ・ 学生の社会課題意識・専門領域・目的と、受入側のジョブオファー・期待・条件を説明会・面談で摺合せ
- ・ CMPでの取組み、スタジオでの実務家等との対話・協働などを通じた関心、問題意識も重要な要素

インターンシップの全体構造



スケジュール



College of Design時間割シミュレーション

【別紙 7】

A1ターム

曜日 時限	月					火					水					木					金					集中開講等				
	科目群	必・選	配当年次	教室	科目名	科目群	必・選	配当年次	教室	科目名	科目群	必・選	配当年次	教室	科目名	科目群	必・選	配当年次	教室	科目名	科目群	必・選	配当年次	教室	科目名	科目群	必・選	配当年次	教室	科目名
1	IP	選	2・3・4	204	E&S 1	IP	選	2・3・4	204	E&S 2						IP	選	2・3・4	204	E&S 1	IP	選	2・3・4	204	E&S 2	AC	必	1	101	Academic Communication I
	IP	選	2・3・4	302	TF&AI 1	IP	選	2・3・4	302	TF&AI 2						IP	選	2・3・4	302	TF&AI 1	IP	選	2・3・4	302	TF&AI 2	Off-Campus	必	4		Off-Campus Experience
	IP	選	2・3・4	303	G&M 1	IP	選	2・3・4	303	G&M 2						IP	選	2・3・4	303	G&M 1	IP	選	2・3・4	303	G&M 2					
	IP	選	2・3・4	403	H&W 1	IP	選	2・3・4	403	H&W 2						IP	選	2・3・4	403	H&W 1	IP	選	2・3・4	403	H&W 2					
	IP	選	2・3・4	404	C&S 1	IP	選	2・3・4	404	C&S 2						IP	選	2・3・4	404	C&S 1	IP	選	2・3・4	404	C&S 2					
2	IF	必	1	101	IF 1	IF	必	1	101	IF 2	VS	選	1	101	VS I	IF	必	1	101	IF 1	IF	必	1	101	IF 2					
	IP	選	2・3・4	204	E&S 3	IP	選	2・3・4	204	C&S 3	VS	選	2	101	VS II	IP	選	2・3・4	204	E&S 3	IP	選	2・3・4	204	C&S 3					
	IP	選	2・3・4	302	TF&AI 3	IP	選	2・3・4	302	E&S 4	VS	選	3	101	VS III	IP	選	2・3・4	302	TF&AI 3	IP	選	2・3・4	302	E&S 4					
	IP	選	2・3・4	403	G&M 3	IP	選	2・3・4	403	TF&AI 4	VS	選	4	101	VS IV	IP	選	2・3・4	403	G&M 3	IP	選	2・3・4	403	TF&AI 4					
	IP	選	2・3・4	404	H&W 3	IP	選	2・3・4	404	G&M 4						IP	選	2・3・4	404	H&W 3	IP	選	2・3・4	404	G&M 4					
3	DS	必	1	101	DS 1	DS	必	1	101	DS 1						DS	必	1	101	DS 1	DS	必	1	101	DS 1					
	DS	必	1	403	DS 2	DS	必	1	403	DS 2						DS	必	1	403	DS 2	DS	必	1	403	DS 2					
	DS	必	1	404	DS 3	DS	必	1	404	DS 3						DS	必	1	404	DS 3	DS	必	1	404	DS 3					
	DS	必	1	405	DS 4	DS	必	1	405	DS 4						DS	必	1	405	DS 4	DS	必	1	405	DS 4					
	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 1	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 1						CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 1	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 1					
	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 2	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 2						CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 2	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 2					
	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 3	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 3						CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 3	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 3					
	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 4	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 4						CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 4	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 4					
	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 5	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 5						CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 5	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 5					
	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 6	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 6						CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 6	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 6					
4～※																														

A2ターム

曜日 時限	月					火					水					木					金					集中開講等				
	科目群	必・選	配当年次	教室	科目名	科目群	必・選	配当年次	教室	科目名	科目群	必・選	配当年次	教室	科目名	科目群	必・選	配当年次	教室	科目名	科目群	必・選	配当年次	教室	科目名	科目群	必・選	配当年次	教室	科目名
1	IP	選	2・3・4	204	H&W 4	IP	選	2・3・4	204	H&W 5						IP	選	2・3・4	204	H&W 4	IP	選	2・3・4	204	H&W 5	Off-Campus	必	4		Off-Campus Experience
	IP	選	2・3・4	302	C&S 4	IP	選	2・3・4	302	C&S 5						IP	選	2・3・4	302	C&S 4	IP	選	2・3・4	302	C&S 5					
	IP	選	2・3・4	303	E&S 5	IP	選	2・3・4	303	E&S 6						IP	選	2・3・4	303	E&S 5	IP	選	2・3・4	303	E&S 6					
	IP	選	2・3・4	403	TF&AI 5	IP	選	2・3・4	403	TF&AI 6						IP	選	2・3・4	403	TF&AI 5	IP	選	2・3・4	403	TF&AI 6					
	IP	選	2・3・4	404	G&M 5	IP	選	2・3・4	404	G&M 6						IP	選	2・3・4	404	G&M 5	IP	選	2・3・4	404	G&M 6					
2	IF	必	1	101	IF 3	IF	必	1	101	IF 4	VS	選	1	101	VS I	IF	必	1	101	IF 3	IF	必	1	101	IF 4					
	IP	選	2・3・4	204	H&W 6	IP	選	2・3・4	204	H&W 7	VS	選	2	101	VS II	IP	選	2・3・4	204	H&W 6	IP	選	2・3・4	204	H&W 7					
	IP	選	2・3・4	302	C&S 6	IP	選	2・3・4	302	C&S 7	VS	選	3	101	VS III	IP	選	2・3・4	302	C&S 6	IP	選	2・3・4	302	C&S 7					
	IP	選	2・3・4	303	E&S 7	IP	選	2・3・4	303	E&S 8	VS	選	4	101	VS IV	IP	選	2・3・4	303	E&S 7	IP	選	2・3・4	303	E&S 8					
	IP	選	2・3・4	403	TF&AI 7	IP	選	2・3・4	403	TF&AI 8						IP	選	2・3・4	403	TF&AI 7	IP	選	2・3・4	403	TF&AI 8					
3	IP	選	2・3・4	404	G&M 7	IP	選	2・3・4	404	G&M 8						IP	選	2・3・4	404	G&M 7	IP	選	2・3・4	404	G&M 8					
	DS	必	1	403	DS 2	DS	必	1	403	DS 2						DS	必	1	403	DS 2	DS	必	1	403	DS 2					
	DS	必	1	404	DS 3	DS	必	1	404	DS 3						DS	必	1	404	DS 3	DS	必	1	404	DS 3					
	DS	必	1	405	DS 4	DS	必	1	405	DS 4						DS	必	1	405	DS 4	DS	必	1	405	DS 4					
	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 1	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 1						CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 1	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 1					
	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 2	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 2						CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 2	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 2					
	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 3	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 3						CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 3	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 3					
4～	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 4	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 4						CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 4	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 4					
	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 5	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 5						CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 5	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 5					
	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 6	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 6						CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 6	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 6					

S1ターム

曜日	月					火					水					木					金					集中開講等				
時間	科目群	必・選	配当年次	教室	科目名	科目群	必・選	配当年次	教室	科目名	科目群	必・選	配当年次	教室	科目名	科目群	必・選	配当年次	教室	科目名	科目群	必・選	配当年次	教室	科目名	科目群	必・選	配当年次	教室	科目名
1	IF	必	1	101	IF 5	IP	選	2・3・4	302	H&W 9						IF	必	1	101	IF 5	IP	選	2・3・4	302	H&W 9	CGD	選	4	STUDIO-A	Capstone Group Design Project
	IP	選	2・3・4	204	H&W 8	IP	選	2・3・4	303	C&S 9						IP	選	2・3・4	204	H&W 8	IP	選	2・3・4	303	C&S 9					
	IP	選	2・3・4	302	C&S 8	IP	選	2・3・4	303	E&S 10						IP	選	2・3・4	302	C&S 8	IP	選	2・3・4	303	E&S 10					
	IP	選	2・3・4	303	E&S 9	IP	選	2・3・4	403	TF&AI 10						IP	選	2・3・4	303	E&S 9	IP	選	2・3・4	403	TF&AI 10					
	IP	選	2・3・4	403	TF&AI 9	IP	選	2・3・4	404	G&M 10						IP	選	2・3・4	403	TF&AI 9	IP	選	2・3・4	404	G&M 10					
	IP	選	2・3・4	404	G&M 9											IP	選	2・3・4	404	G&M 9										
2	IF	必	1	101	IF 6	IF	必	1	101	IF 7	VS	選	1	101	VS I	IF	必	1	101	IF 6	IF	必	1	101	IF 7					
	IP	選	2・3・4	204	H&W 10	IP	選	2・3・4	204	H&W 11	VS	選	2	101	VS II	IP	選	2・3・4	204	H&W 10	IP	選	2・3・4	204	H&W 11					
	IP	選	2・3・4	302	C&S 10	IP	選	2・3・4	302	C&S 11	VS	選	3	101	VS III	IP	選	2・3・4	302	C&S 10	IP	選	2・3・4	302	C&S 11					
	IP	選	2・3・4	303	E&S 11	IP	選	2・3・4	303	E&S 12	VS	選	4	101	VS IV	IP	選	2・3・4	303	E&S 11	IP	選	2・3・4	303	E&S 12					
	IP	選	2・3・4	403	TF&AI 11	IP	選	2・3・4	403	TF&AI 12						IP	選	2・3・4	403	TF&AI 11	IP	選	2・3・4	403	TF&AI 12					
	IP	選	2・3・4	404	G&M 11	IP	選	2・3・4	404	G&M 12						IP	選	2・3・4	404	G&M 11	IP	選	2・3・4	404	G&M 12					
3	DS	必	1	403	DS 5	DS	必	1	403	DS 5						DS	必	1	403	DS 5	DS	必	1	403	DS 5					
	DS	必	1	404	DS 6	DS	必	1	404	DS 6						DS	必	1	404	DS 6	DS	必	1	404	DS 6					
	DS	必	1	405	DS 7	DS	必	1	405	DS 7						DS	必	1	405	DS 7	DS	必	1	405	DS 7					
	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 7	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 7						CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 7	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 7					
	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 8	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 8						CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 8	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 8					
	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 9	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 9						CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 9	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 9					
	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 10	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 10						CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 10	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 10					
	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 11	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 11						CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 11	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 11					
	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 12	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 12						CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 12	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 12					
4～																														

S2ターム

曜日	月					火					水					木					金					集中開講等				
時間	科目群	必・選	配当年次	教室	科目名	科目群	必・選	配当年次	教室	科目名	科目群	必・選	配当年次	教室	科目名	科目群	必・選	配当年次	教室	科目名	科目群	必・選	配当年次	教室	科目名	科目群	必・選	配当年次	教室	科目名
1	IP	選	2・3・4	204	H&W 12	IP	選	2・3・4	204	H&W 13						IP	選	2・3・4	204	H&W 12	IP	選	2・3・4	204	H&W 13	AC	必	1	101	Academic Communication II
	IP	選	2・3・4	302	C&S 12	IP	選	2・3・4	302	C&S 13						IP	選	2・3・4	302	C&S 12	IP	選	2・3・4	302	C&S 13	CGD	選	4	STUDIO-A	Capstone Group Design Project
	IP	選	2・3・4	303	E&S 13	IP	選	2・3・4	303	E&S 14						IP	選	2・3・4	303	E&S 13	IP	選	2・3・4	303	E&S 14					
	IP	選	2・3・4	403	TF&AI 13	IP	選	2・3・4	403	TF&AI 14						IP	選	2・3・4	403	TF&AI 13	IP	選	2・3・4	403	TF&AI 14					
	IP	選	2・3・4	404	G&M 13	IP	選	2・3・4	404	G&M 14						IP	選	2・3・4	404	G&M 13	IP	選	2・3・4	404	G&M 14					
2	IF	必	1	101	IF 8	IF	必	1	101	IF 9	VS	選	1	101	VS I	IF	必	1	101	IF 8	IF	必	1	101	IF 9					
	IP	選	2・3・4	204	H&W 14	IP	選	2・3・4	204	TF&AI 15	VS	選	2	101	VS II	IP	選	2・3・4	204	H&W 14	IP	選	2・3・4	204	TF&AI 15					
	IP	選	2・3・4	302	C&S 14	IP	選	2・3・4	302	H&W 15	VS	選	3	101	VS III	IP	選	2・3・4	302	C&S 14	IP	選	2・3・4	302	H&W 15					
	IP	選	2・3・4	403	E&S 15	IP	選	2・3・4	403	C&S 15	VS	選	4	101	VS IV	IP	選	2・3・4	403	E&S 15	IP	選	2・3・4	403	C&S 15					
	IP	選	2・3・4	404	G&M 15	IP	選	2・3・4	404	G&M 16						IP	選	2・3・4	404	G&M 15	IP	選	2・3・4	404	G&M 16					
3	DS	必	1	403	DS 5	DS	必	1	403	DS 5						DS	必	1	403	DS 5	DS	必	1	403	DS 5					
	DS	必	1	404	DS 6	DS	必	1	404	DS 6						DS	必	1	404	DS 6	DS	必	1	404	DS 6					
	DS	必	1	405	DS 7	DS	必	1	405	DS 7						DS	必	1	405	DS 7	DS	必	1	405	DS 7					
	DS	必	1	101	DS 8	DS	必	1	101	DS 8						DS	必	1	101	DS 8	DS	必	1	101	DS 8					
	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 7	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 7						CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 7	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 7					
	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 8	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 8						CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 8	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 8					
	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 9	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 9						CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 9	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 9					
	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 10	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 10						CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 10	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 10					
	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 11	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 11						CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 11	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 11					
	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 12	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 12						CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 12	CMP	選	2・3	STUDIO-B	CMP 12					
4～																														

※各日4限目以降および水曜日は、スタジオ等を活用し、授業時間外学修を含む主体的な学びに取り組む

科目群の凡例

AC : Academic Communication
DS : 8 Track Design Series
IF : Interdisciplinary Foundations
CMP : Change Maker Design Projects

IP : Interdisciplinary Perspectives
VS : Viewpoint Series
Off-Campus : Off-Campus Experience
CGD : Capstone Group Design Project